

平成24年度



こち子どもファンド 事業報告書

平成24年度
こち子どもファンド 活動発表会



こうちし
高知市



【目次】

1 「こうちこどもファンド」創設の経緯と制度概要	… 1
2 平成 24 年度 「こうちこどもファンド」事業スケジュール	… 2
3 「こうちこどもファンド」の助成を決定する審査員	… 3
4 こうちこどもファンド 審査会	… 5
5 助成団体の活動	… 11
6 こうちこどもファンド 助成団体活動発表会	… 14
7 高知市子どもまちづくり基金 平成 24 年度寄附実績	… 21
8 アンケートの実施について	… 22
9 24 年度の事業を振り返って～25 年度への課題～	… 23

【資料編】

- ★高知市子どもまちづくり基金条例
- ★高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱
- ★平成 24 年度審査会【一般来場者アンケート】
 - 【応募団体向けアンケート(対象:子ども)】
 - 【応募団体向けアンケート(対象:大人サポーター)】
- ★平成 24 年度活動発表会【応募団体向けアンケート(対象:子ども)】
 - 【応募団体向けアンケート(対象:大人サポーター)】
- ★平成 24 年度審査会【審査員向けアンケート(対象:こども審査員)】
- ★こうちこどもファンド募集チラシ
- ★「こどもファンド通信」創刊号(平成 24 年 8 月発行)
- ★「こどもファンド通信」第 2 号(平成 24 年 10 月発行)
- ★「こどもファンド通信」第 3 号(平成 25 年 1 月発行)
- ★「こどもファンド通信」第 4 号(平成 25 年 3 月発行)



こ あ い さ つ

私は、各小学校や中学校を回る中で、子どもたちが、まちのこと、環境の問題、そして最近では防災の問題、地域の高齢者の見守りの問題、本当に真剣に考えているということ、常日頃から強く感じておりました。

そして、子どもたちの真剣な思いを、できるだけ事業につなげていきたいと考える中で、子どもたちの想いを事業にしているところがヨーロッパの国にあるということで、ぜひ日本のこの高知でもやりたいと勉強し、「こうちこどもファンド」を立ち上げました。

高知市では、大人のまちづくりファンドを平成 15 年から運営しており、審査委員長の卯月先生にはそちらでも大変お世話になっております。今回の「こうちこどもファンド」の立ち上げにつきましても、大変ご尽力くださいました。

「高知の子どもたちの素晴らしい活動を支援するしっかりとした制度をつくり、子どもたちの素晴らしい活動を全国に発信したい」とご相談しながら、どのようなやり方で、どのようなしくみをつくっていかうかと検討いたしました結果、この「こうちこどもファンド」の制度を設立いたしました。初年度の平成 24 年度は子どもたちの提案がどれくらい集まるかと心配しておりましたが、13 団体から応募いただき、審査の結果 10 団体に助成を行い、活動をしていただきました。

それぞれの団体の活動の輪が、地域の中で広がりつつあること、そして、子どもたちの団体だけではなく、地域全体に広がりが見られていることは大切にしていかなければいけないと思っております。

全国に先駆けて「こうちこどもファンド」をスタートさせ、平成 25 年度以降も、新たな団体の活動や、それ以外にも様々な地域での活動に広げていきたいと考えております。まだ試行錯誤の段階ではありますが、制度の趣旨は市民の皆様へ浸透しつつありますし、徐々に形にはなりつつあります。主役の子どもたちが素晴らしい活動や発表をしていますので、私たちがたいへん頼もしく、また将来がとても楽しみでもあります。

地域は、子どもたちも含めてみんなで守り、そして育てていかなければならないというのが私たちの想いです。子どもたちひとりひとりが意見を持ち、それを発表する機会や場として、「こうちこどもファンド」を今後も継続発展させていきたいと思っております。

そして、高知市としましても、実際に素晴らしい提案を、事業や仕事の中で、また地域の中で活かしていきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をお願い申し上げます。

平成 25 年 6 月
高知市長 岡崎 誠也

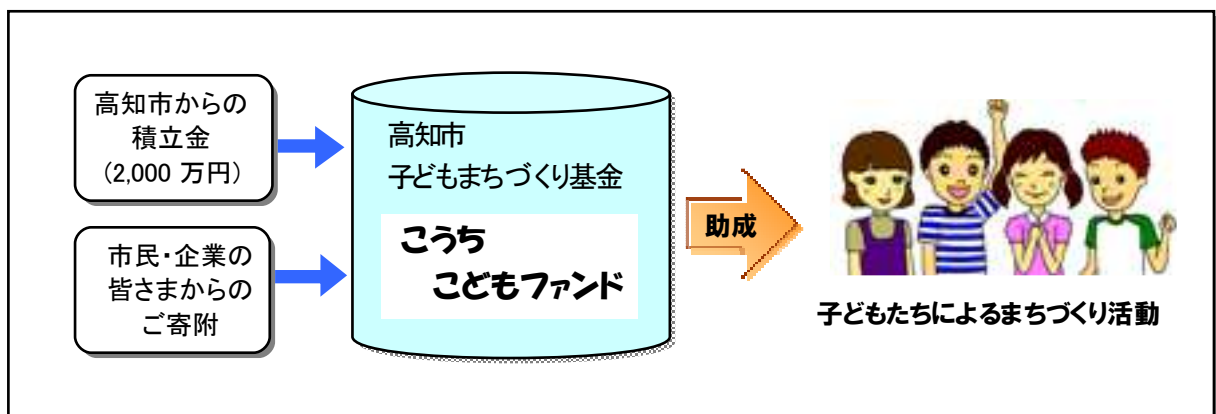


1 「こうちこどもファンド」創設の経緯と制度概要

高知市では、市民による自主的なまちづくり活動を支援する、公益信託「高知市まちづくりファンド」を平成 15 年に創設しました。この制度の 10 年の成果を振り返るための検討委員会が平成 23 年に設置され、その検討委員会による「子どもによるまちづくり」の提言を踏まえ、子どものまちづくりの先進地である、ドイツ・ミュンヘン市の取り組みを参考にして制度を設計したのが、この「こうちこどもファンド」です。

平成 24 年 4 月、高知市子どもまちづくり基金を設立し、「こうちこどもファンド」の制度がスタートしました。この助成金制度の趣旨にご賛同いただける各企業や団体、市民の方を少しでも増やし、寄附金という形で支援をいただきながら、制度を継続していくために、「こうちこどもファンド」では、基金取崩し方式を採用しています。

助成対象となるグループは、子どもたち 3 名以上で構成され、大人のサポーターが 2 名以上参加していることを要件としています。これは、子どもたちだけでは実現困難な活動を支援することと、助成金の資金管理を、大人のサポーターに担っていただくためです。助成金は 1 グループ 20 万円まで。同じ活動に対する助成金交付は 3 回を限度としています。



効果

1

将来のまちづくりを支える「人財」の育成

子どもの時から、まちづくり活動に携わることで、「自分たちのまちは自分たちで良くする」という主体性を醸成し、コミュニティ能力や、市民性（シチズンシップ）を育み、将来、地域の活動に積極的に参加する『人財』を育成します。

効果

2

「子ども」を中心としたまちづくりの活性化

活動には、周囲の大人である家族や地域住民、関係団体の協力が必要不可欠です。活動を進めていくなかで、周囲の大人たちが自然と巻き込まれることによって、地域活動の活性化が図られます。

効果

3

子どもにやさしいまち（高知市）の実現

子どもにやさしいまち、それは社会的弱者にやさしいまちです。子どもたちの、素晴らしい感性やアイデアをまちづくりに反映することによって、子どもたち、そしてみんなにとって住みやすく、優しいまちを築き上げていきます。

2 平成 24 年度 「こうちこどもファンド」事業スケジュール

	運営等	広報等
4 月	22 日 事前説明会① (会場：市民活動サポートセンター)	8 日 市体育会理事会で事業周知 11 日 市小中校長会で事業周知 12 日 事業募集チラシ配布開始 13 日 市青少年育成協議会理事幹事会で事業周知
5 月	13 日 事前説明会② (会場：市民活動サポートセンター) 20 日 事前説明会③ (会場：市民活動サポートセンター)	市内の金融機関・量販店に事業概要リーフレット配置依頼
6 月	17 日 事前研修会(こども審査員) 24 日 公開審査会(会場：文化プラザかるぼーと)	6 日 市民生委員児童委員協議会連合会で事業周知
7 月		平成 24 年度 審査会報告書 発行
8 月		こどもファンド通信(創刊号)発行 市内事業所に寄附依頼を送付(1211 事業所)
9 月		市内事業所に寄附依頼を送付(92 事業所)
10 月		こどもファンド通信(第 2 号)発行
11 月	助成団体の活動期間	
12 月		
25 年 1 月		こどもファンド通信(第 3 号)発行 7 日 市民生委員児童委員協議会連合会で次年度事業募集の周知 8 日 次年度事業募集チラシ配布開始
2 月		3 日 市青少年育成協議会フォーラムで来年度事業募集周知
3 月	24 日 次年度「こども審査員」応募者面接 (会場：市民活動サポートセンター) 24 日 活動発表会(会場：総合あんしんセンター)	こどもファンド通信(第 4 号)発行

3 「こうちこどもファンド」の助成を決定する審査員

「こうちこどもファンド」の審査員は、「大人審査員」と「こども審査員」で構成されています。

「大人審査員」は、7名で構成され、任期は2年となります。

「こども審査員」は公募で選任することとしましたが、制度開始初年度は時間的な制約もあり、市立・県立の小学校、中学校、高等学校から推薦していただいて選任することとし、高知市・高知県の両教育委員会に協力をお願いすることにしました。また、「とさっ子タウン」で、市長や市議会議員に選ばれた子どもたちにも協力をお願いすることとしました。

このようにして集まった、小学生、中学生、高校生の各3名の合計9名で「こども審査員」は構成されています。この「こうちこどもファンド」では、制度の趣旨を尊重するために、最終的な助成の可否は、大人審査員でなく、こども審査員の過半数の賛成によって決定することにしました。このような方法を採用するのは、「こうちこどもファンド」が全国で初めてです。もちろん、審査結果の責任を子どもたちに負わせることはできないので、7名の大人の審査員で構成される審査委員会の諮問機関的な位置づけとすることにしました。

「こども審査員」の子どもたちも、初めての体験ばかりです。審査会の1週間前には、「事前研修会」を開催し、この事業の趣旨を学ぶとともに、審査する際のポイント等をワークショップ形式で話し合っ決定しました。また、模擬審査会も行い、1週間後の審査会本番に備えました。



【事前研修会】 審査項目を話し合う「こども審査員」



【事前研修会】 模擬審査会

また、「こども審査員」をサポートするために、「こども審査員サポーター」を配置しました。「こども審査員サポーター」には、「事前研修会」での子どもたちの意見の引き出し役から始まり、審査会当日には、こども審査員を影でサポートしていただきました。



【事前研修会】



【公開審査会】

また、申請団体側のサポートとしては、「こどもファンドアドバイザー」を配置しました。

出張相談や、出前のワークショップなど、申請団体の「想い」を引き出し、「形」にするお手伝いや、審査会の中で行った、申請団体の交流会のコーディネート（司会）などのほか、この「こうちこどもファンド」制度の運営の全体を通して、ご助言をいただきました。



【アドバイザー派遣】



【公開審査会（交流会）】

こども審査員

- 細川 悠貴さん 高知高等学校3年
藤村 満里愛さん 高知西高等学校2年
森田 大雅さん 高知商業高等学校2年
池上 勇人さん 春野中学校3年
戸田 樹さん 愛宕中学校2年
片岡 優斗さん 土佐中学校1年
小林 亮介さん 介良小学校6年
杉村 美歩さん 新堀小学校6年
井上 青海さん 第四小学校5年



大人審査員

- 審査委員長 卯月盛夫委員 早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授
審査副委員長 古谷純代委員 高知県商工会議所 女性会連合会会長
新藤こずえ委員 立正大学社会福祉学部講師
廣井綾乃委員 元「とさっ子タウン」実行委員長
松原和廣委員 高知市教育長
森田恵介委員 高知市市民協働部長
山川瑞代委員 高知市総務部副部長

※役職・学年等は平成24年度のものです

4 こうちこどもファンド 審査会

日時:平成 24 年 6 月 24 日(日) 13 時 30 分~18 時

場所:高知市文化プラザかるぽーと 11 階大講義室

参加者:約 180 名

●開会 (13:30~)

☆開会のあいさつ 高知市長 岡崎 誠也

☆審査員等の紹介

☆審査会のスケジュール説明

●応募団体による公開プレゼンテーション・質疑応答 (13:40~)

☆あつまれ!土佐チル

☆浦戸小学校児童会 まちづくりお助けレンジャー

☆大津子ども会連合会「クルック・ソングメイツ」

☆がんばれ高知工業高校応援隊

☆キッズ土佐山

☆高知市立介良中学校生徒会

☆高知市立横浜中学校生徒会「横中ボランティアの会」

☆太平洋学園コミュニティー協力隊

☆匠カフェ実行委員会

☆地域記憶プロジェクト実行委員会

☆PAPAS

☆一ツ橋「ほほえみキッズ」

☆まきえキッズ

●再度の質問時間 (16:00~)

●応募団体交流会 (16:15~)

○審査委員による協議 (別室・非公開)

●審査結果発表 (17:30~)

☆審査結果発表

☆審査委員長からの講評

☆こども審査員からの感想発表



6月24日(日)、「平成24年度こうちこどもファンド公開審査会」が開催されました。応募のあった13団体が、それぞれ自分たちの取り組みたい活動の内容を、パワーポイントや模造紙を使い、時には寸劇や踊りも交えた、趣向をこらした方法でプレゼンテーションを行い、審査員や参加者にアピールをしました。

審査の流れは以下のとおりです。

- ①応募団体のそれぞれに、助成申請した活動内容について公開プレゼンテーションをしてもらいます。(持ち時間は3分間)
- ②各応募団体のプレゼンテーションが終了するごとに、審査員との質疑応答の時間を設けます。(5分間)
- ③こども審査員9名が、公開プレゼンテーションと質疑応答の内容から、チェックシートの「助成する」「助成しない」「迷っている」のいずれの項目に該当するか、記入をします。
「迷っている」という項目に記入したこども審査員が「3名以上」いる団体については、再度の質疑応答を実施します。
- ④すべての団体の公開プレゼンテーションが終了したら、大人審査員、こども審査員は別室に移動し、助成をするかしないかについて審議を行います。
- ⑤審議結果については、公開の場で発表します。



★審査員による協議

審査員による協議は、別室に移り、非公開で行われました。

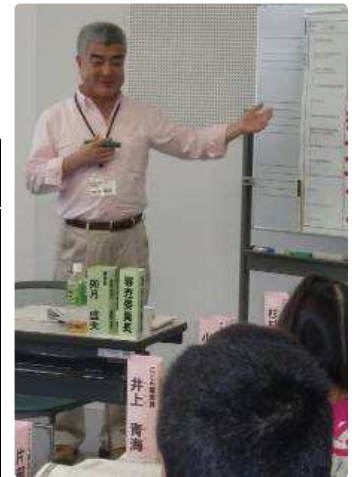
最初に、こども審査員が、自分で記入をしたチェックシートをみながら、一次判断シートの「助成する」「迷っている」「助成しない」のそれぞれの欄にシールを貼りました。そして、助成の可否が、ボーダーラインである「こども審査員の過半数」に達していない団体を中心に、なぜ「助成するを選んだか」「助成しないを選んだか」について意見を出し合いました。大人審査員は、その内容について、新しい視点や切り口を提案したり、地域性や地域の現状などの情報を補ったりしました。

その協議内容を踏まえ、こども審査員が最終判断シートへシールを貼り、最終的に、そのこども審査員の出した結果を尊重した形で、大人審査員が助成団体を決定しました。



平成 24 年度 こうちこどもファンド 審査結果一覧

申請団体名	審査結果	助成金額
あつまれ！土佐チル	採択	200,000 円
浦戸小学校児童会 まちづくりお助けレンジャー	採択	200,000 円
大津子ども会連合会「クルック・ソングメイツ」	採択	200,000 円
がんばれ高知工業高校応援隊	採択	15,800 円
キッズ土佐山	採択	180,000 円
高知市立介良中学校生徒会	採択	200,000 円
高知市立横浜中学校生徒会「横中ボランティアの会」	採択	198,170 円
太平洋学園コミュニティー協力隊	採択	200,000 円
匠カフェ実行委員会	不採択	—
地域記憶プロジェクト実行委員会	採択	200,000 円
PAPAS	採択	147,990 円
一ツ橋「ほほえみキッズ」	不採択	—
まきえキッズ	不採択	—



【審査委員長 講評】

卯月 盛夫 審査委員長(早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授)

予定の時間をかなり超えてみなさんに待っていただいて、本当に申し訳ありませんでした。予想以上にということも変ですけども、こども審査員と大人審査員の意見が違った、異なった箇所もかなりあったために、このようになりました。

非公開で行ったこの審査のプロセスを少しだけご紹介したいと思います。

この「こうちこどもファンド」は、ご案内のとおり、子どもが主体的に自ら住んでいる地域に自主的にかかわり、そのことを通じて地域の人達とふれあい、コミュニティを推進していこうということであります。従って、子どもの目線を見ていただくということで、こども審査員が主になっています。従って、最終的には9人のこども審査員が5票以上、5人以上が助成したいという判断をすることを基準に選びました。

何票という得点は持たずに、一つ一つのチームに「助成する」「助成しない」という判断をし、最終的に10の団体が5票以上獲得したということです。ただ、そのプロセスには結構色々な議論がありました。

最初から5票以上獲得したのは、ちょっと今数字を忘れたけど、5団体ぐらいしかなかったと思います。それ以外は、NOという意味ではなく「迷っている」というものがかなり多かった。そのことに対して、大人の審査員から地域性ですとか、合併したとかしていないとか、町なかだとか、かなり離れているだとか、子どもたちがなかなか分かりにくい情報について、大人からその情報を伝えて、大人の判断を伝えたいと、最終的に子どもたちに判断してもらったということでもあります。あるいは大人の審査員につきましても、「助成する」「今回は難しい」という判断をして子どもと大人の評価を全部1票にして、ひとつずつ議論していったということでもあります。

ひとつひとつのことを申し上げる時間はないですけども、惜しくも選に漏れてしまった3つの団体についてはお話をしておいた方がよいと思いますので、それだけ時間を取らせていただきたいと思います。

「匠カフェ実行委員会」これも本当に最後まで議論をしたグループです。最終的には選に漏れてしまいましたが、本当にギリギリでした。ちょっと印象的だったのは、小学生の審査員は比較的「応援しよう」という意見がありました。高校生の提案に対して年齢が高い子どもたちが少し厳しい判断をしたということもありますし、最後の方の決め手になったのは、もちろん人材育成とか子どもたちの将来の職業選びには貢献するかもしれないけども、すぐにこれが高知のまちづくりに貢献するだろうかというようなポイントが大きな決め手になったと思います。もちろんそれが、まちづくりに繋がらないとは全く思いませんけれども、その人材育成ということがまちづくりに繋がっていく道筋がまだきちんと示されてなかったのでは



ないかということです。むしろ、次年度に向けて提案していただけるのであれば、小学生とか中学生に対してもあまり知らない職業、高知で働いている、県外よりもむしろ県内のまだ知られてない職業等も紹介していただけると、より県内のまちづくりということに繋がるという意見が出されまして、本当に惜しかったです。今回は選に漏れてしまいました。

それから、「一ツ橋ほほえみキッズ」。これも最後まで議論になりました。やはり、決め手というか、議論になったのは、オカリナをみんなで手作りで作って、その吹き方を習って、地域や老人施設でやっていこうということであったのですが、これはこれでよく分かるのですが、オカリナを作って、地域に行くということ、そのことを、先ほども申し上げた「地域のまちづくり」とどのように繋げて考えるのかということが少し弱かったという印象があります。これは比較の問題なので、他のグループの活動計画と比較をしたときに、少し弱かったのではないかと思います。あと、こども審査員から指摘されたのは計画の中で少し空白があって、「そこで何をやるのだろうか」という疑問も少し生まれたことが、1年間の計画ということになっていますので、少し票が伸びなかったという印象で、このような結果になりました。

もうひとつは、「まきえキッズ」です。これは質疑応答の中にもありましたが、あいさつ運動と防災キャンプという大きな2つの柱がありました。あいさつ運動は、かなりこども審査員の方から支持もあって、「とても重要だ。こういう新しいコミュニティの中でそういうことをしていくのはとても良い」という評価があったのですが、そのあいさつ運動と防災キャンプの関係というのですかね、ちょっと見えにくいね、ということでした。特に内訳というか、助成金のほとんどが防災キャンプの用品に充てられているということも、もうひとつ「あいさつ運動」と「防災まちづくり」の観点が分かりにくいということでありまして、発表した子どもたちも5月から始めて、町内会・自治会の方と連携してきた点でちょっと準備不足という印象が否めなかったというのが事実であります。これも相対的なもので他のグループが準備し、書いてきたことと比べて、ちょっとそういう視点が指摘されたということであって、やろうとしていること、あるいは答えていることが間違っている方向ということではなく、当然こういった蒔絵台のような住宅地でやって欲しい、やるべきだと我々は思っておりますけれども、13団体の中では少し準備不足という印象から、今回選に漏れたというように思っています。

ということで、待たせたにもかかわらず選に漏れてしまったところに対しては申し訳ない気持ちでありますけれども、先ほど副委員長からもあったように、やることがよくないと言っている意味でなくて、全部に活動してほしいわけですが、適切な活動に適切な助成金を出したいというのが我々の意図でありますので、次年度もう少し計画を練っていただいて、出していただければ、この3つの団体は次年度はかなり上位で助成されると思っています。今申し上げたようなことも少し考慮していただきたいと思います。

★申請団体交流会

審査員が別室で審査をしている時間を利用し、会場では、応募団体同士の親交を深めていただくために、「こどもファンドアドバイザー」の進行によって団体の交流会を行いました。

交流会は、旗揚げアンケートの方法を使い、参加者に事前に配布していた色紙を使って行いました。そして、会場内にインタビューをしながら進行了しました。

第1問 今日はどのような立場で参加したか

赤色：応募をされた方（子ども・大人）	→ 80名
青色：応募した人の関係者	→ 40名
緑色：こども審査員の関係者	→ 6名
黄色：一般参加者	→ 2名
白色：その他	→ 1名

第2問 （赤を挙げた中で）応募のきっかけは

赤色：おもしろそうだったから	→ 10名
青色：仲間と一緒に何かをしたかったから	→ 40名
緑色：大人に頼まれた、市から頼まれた	→ 25名
黄色：何となく	→ 0名
白色：その他	→ 10名

第3問 （赤を挙げた中で）ここまで終えて今の気持ちは

赤色：発表するうちにやる気が出てきたぞ	→ 6名
青色：とりあえずホッとした	→ 40名
緑色：審査結果が気になりドキドキしている	→ 15名
黄色：疲れた。早く帰りたい	→ 20名
白色：その他	→ 1名

第4問 （自分のところ以外で）発表を聞いた感想は

赤色：いいな、と思うところがあった	→ 130名
青色：どれもピンとこなかった	→ 0名

第5問 質疑応答を聞いての感想

赤色：なかなかやるなあ	→ 130名
青色：こんなこと高知では当たり前だ	→ 1名
白色：その他	→ 1名

第6問 こうちこどもファンドについて

赤色：子どものまちづくりってワクワクするな	→ 15名
青色：子どもと大人が一緒に取り組むことが大切	→ 100名
緑色：良いことだと思うけど難しいかな	→ 15名
白色：その他	→ 2名



5 助成団体の活動

助成活動期間:平成 24 年7月1日 ~ 平成 25 年2月 28 日

審査会において助成決定された 10 団体は、それぞれ次のような活動を行いました。

なかなか最初の計画どおりに活動が進まずに苦労したケースもありましたが、一方で、最初の計画に留まらず、地域の団体や企業などを巻き込んだ活動の広がりを見せたケースや、他の地域から「参考にさせてほしい」というお声をいただいたケースなどもありました。

助成団体の『PAPAS』を例に挙げて紹介しますと、このグループは高知市の中心商店街のシャッターや道路上の構造物に書かれた落書きを消し、通行人や住民の方が嫌な思いをすることのないようにしようという活動で、落書きを消す洗剤は、高知市の企業が商品として販売しているものを使用しました。

彼らが実際に中心商店街の落書きを消す作業を行うに当たって、子どもたちが、商店街の組合に活動の趣旨と日程について説明し、警察や電力会社等の許可が必要な機関等については、大人のサポーターとなった同校の生徒会担当教諭が支援し、了承を得たうえで活動を行いました。2日間の落書き消し作業、そして日を改めて落書きを防止するための街頭 PR 活動も行いました。電力会社の職員も作業に参加いただき、ある店主からは心あたたまる差し入れを受け、さらには、マスコミのニュースに活動が取り上げられるなど、子どもたちも自分たちの活動による反響を体験できたと思います。

『PAPAS』以外の団体の子どもたちも、それぞれが様々な活動に取り組んでおり、学校での学習とはまた違った、多くの経験を得たのではないかと考えています。

あつまれ！土佐チル

～子どもの、子どもによる、
みんなのためのステージ！！～

つながりをつくり、地域に笑顔を増やすために、平成 24 年8月 26 日(日)に要法寺で開催された『ザ・縁日』の中で、劇・マジックショー・ダンスショーを披露する『こどもステージ』を実施しました。

実施に向けては、入念なミーティングや練習を重ねて準備しました。



大津子ども会連合会

「クルック・ソングメイツ」

～みんなて手をつなごう「こぼとキャラバン」～

以前から取り組んでいる活動を通して、普段からの「人と人とのつながり」の大切さに気づき、自分たちの住む地域でのつながりづくりのために、地域の夏祭りのステージで踊りなどを披露したり、人形劇を練習して、地域の保育園や宅老所などを訪問して披露したりしました。



浦戸小学校児童会まちづくりお助けレンジャー

～『“かがやけ・元気・前進”をする
まちをつくらう』プロジェクト～

子どもたちが『まちづくりお助けレンジャー』になって、自分たちのまち「浦戸」がもっと元気になるように活動しました。

桂浜の清掃や花海道の花の植替え、宅老所の訪問や敬老会への参加、またお手紙付きお弁当の配布などを通してのお年寄りとの交流、防災啓発ポスターを作成して地域に配布するなど、色々なことにチャレンジしました。



太平洋学園コミュニティ協力隊

～学校と町内の皆さんとの交流を図り、より安心して楽しく暮らせるまち“ハッピーコミュニティ”づくりを推進するボランティアプロジェクト～

挨拶の声掛けや地域行事への参加などの交流活動、地域の方と一緒に自主防災組織を設立する防災活動、学校周辺や町内のゴミ拾いなどの環境美化活動など、様々な活動を行うことで学校と地域の方との交流を図りました。



キッズ土佐山

～防災意識を高めよう～

土佐山消防分団屯所のシャッターに絵を描いて、その絵を通して地域の人たちに消防分団の活動を知ってもらい、地域の防災意識を高めることを目標に取り組みました。

平成 24 年 10 月にシャッターの絵が完成し、その後は絵を印刷したポケットティッシュを子どもたちが各戸に配るなど、地域の防災意識を高める活動を行いました。



がんばれ高知工業高校応援隊

～筆山における避難路案内板の設置と保全活動～

南海地震が発生した際の地域での避難場所となる筆山に避難路案内板を設置して、地域住民の皆さんの迅速な避難に役立つようにしました。

また、地域のシンボル・憩いの場である筆山がいつまでもきれいな状態を保てるように、筆山公園の清掃活動を実施しました。



高知市立介良中学校生徒会

～介良の史跡を知ってもらおうプロジェクト～

自分たちの住む介良地区にたくさん残っている史跡を、より多くの方たちに知ってもらうため、史跡の案内標識を整備しました。

整備に向けては、地域の方たちと一緒に整備予定コースを歩いて、相談しながら取り組みを進めていきました。

また、地域の方たちと合同で、史跡巡りハイキングも実施しました。



地域記憶プロジェクト実行委員会

～地域の記憶を地域で守ろうプロジェクト～

高知東高校の生徒たちが自分たちの学校のある一宮地区の、地域に眠っている歴史資料を地域の方と一緒に調査し、「地域の記憶」をかけがえのない「地域の歴史」として未来に伝えていくための取り組みを行いました。

今後も引き続き、地域の方と一緒に調査を続行していく予定です。



PAPAS

～Good Bye RAKUGAKI (in our city)～

高知丸の内高校がある、高知市の中心商店街周辺の落書きを消していく活動を通して、住んでいる皆さんが嫌な思いをすることなく暮らせ、また観光客から「高知には落書きがない！また来たい！」と言ってもらえるような、きれいなまちを目指して取り組みました。

落書き消しの活動の後には、街頭での落書き防止の呼び掛けも実施しました。



高知市立横浜中学校生徒会

「横中ボランティアの会」

～笑顔あふれるまちづくり！

「花いっぱい・クリーンアップ」大作戦！～

地域での清掃ボランティアや、地域を花いっぱいにする活動を通して、地域の方との交流を深めてまちづくり活動を連携して行い、より活気のある地域になるように取り組みました。校内で育てた花の苗は、自分たちで街路樹の下などに植えた他、町内会などへ配布したり、地域の保育園や介護施設などに植えました。



6 こうちこどもファンド 助成団体活動発表会

日時:平成 25 年3月 24 日(日) 13 時 30 分～16 時 30 分

場所:高知市総合あんしんセンター 3階大会議室

参加者:約 180 名

●開会 (13:30～)

●活動成果発表 (13:40～)

☆あつまれ!土佐チル

☆大津子ども会連合会「クルック・ソングメイツ」

☆浦戸小学校児童会 まちづくりお助けレンジャー

☆太平洋学園コミュニティー協力隊

☆キッズ土佐山

☆がんばれ高知工業高校応援隊

☆高知市立介良中学校生徒会

☆地域記憶プロジェクト実行委員会

☆PAPAS

☆高知市立横浜中学校生徒会「横中ボランティアの会」

●交流タイム (14:40～)

●閉会式 (15:50～)

☆こども審査員からの感想発表

☆「ベストこどもファンド賞」表彰

☆審査委員長からの講評

3月24日(日)に、平成24年度の助成団体活動発表会が開催されました。

10の助成団体が、それぞれこの8か月間に行ったまちづくり活動を1グループ3分以内で発表を行いました。自分たちの住む「まち」について、それぞれの立場で感じ、考え、行動した8か月間であったようで、自信あふれる発表に、一回り成長した子どもたちの姿を見ることができたように思います。



また、参加者には、それぞれの団体の発表に対する感想や質問を、付箋に書いていただきました。その後の交流タイムでは、この付箋で出された感想・質問をもとに、審査員と、助成団体とのやりとりによって会場内参加者の交流を図りました。



生徒会執行部で下見をして、全校生徒に呼び掛けました



どうやってみんなに呼びかけましたか？



付箋で出された感想（一部）

- 自分たちで準備から片付けまでしっかり出来ており、すごいと思いました。これからも頑張ってください。（「土佐チル」への感想）
- これからも自分に自信をもって色々なことに取り組んでいってください。成功があれば失敗することもあるし、失敗すれば成功に繋がるので、これからも頑張ってください。（「クルック・ソングメイツ」への感想）
- 工業高校だから出来る看板づくりを行い、災害への意識を高めることが出来ており素晴らしいと思いました。（「高知工業高校」への感想）
- まちづくりは何かをつくるだけでなく、いまあるものを大事に使う、これもこれからのまちづくりに貢献出来ると思うので頑張ってください。（「PAPAS」への感想）
- みなさんが、地域を大切にし、地域に大切にされていることがわかりました。（「横中ボランティアの会」への感想）

- 卒業しても後輩が受け継いでくれるという大きな成果を残し、また地域の大人の協力も得ることができ、よかったですね。（「浦戸小学校」への感想）
- 地元を知る活動は素晴らしいと思います。周りの人にも伝えていってください。（「介良中」への感想）
- 地道ですが大切な活動ですね。“より遠い未来への伝承”素晴らしいと思います。高校生がこんなことまでできるのか、と感動しました。（「地域記憶プロジェクト」への感想）
- 地域との交流は継続することが大事です。今後も頑張ってください。（「太平洋学園」への感想）
- 「このシャッターが開かない日が多いといいな」という資料の一文が素敵です。（「キッズ土佐山」への感想）
- シャッターペイントから防災意識啓発向上へと活動が大きく発展し、周囲からの評価も得て素晴らしいことです。（「キッズ土佐山」への感想）

ベストこどもファンド賞2012 決定！！

活動発表会では、「ベストこどもファンド賞」の金賞、銀賞、銅賞を決定しました。これは、会場にいるすべての参加者がひとり1枚の投票カードを持ち、24年度の助成団体である10団体の中から、それぞれが「一番ステキな活動をしている」と感じた団体の投票箱に投票する形で決定しました。

金賞

- ★高知市立横浜中学校生徒会
「横中ボランティアの会」
(子ども票 18票 大人票8票)



銀賞

- ★大津子ども会連合会
「クルック・ソングメイツ」
(子ども票 11票 大人票 14票)



銅賞

- ★キッズ土佐山
(子ども票 8票 大人票6票)



- ★地域記憶プロジェクト実行委員会
(子ども票 2票 大人票 12票)





【細川審査員】審査してから半年経ち、皆さんの活動の記録を追うことができ、よかったですと思います。自分自身は、進路の関係でもうすぐ高知を離れることになりませんが、皆さんと一緒に高知でこういう活動をしたことを、すごく誇りに思います。来年度も、もし帰って来られるなら、参加したいと思います。



【藤村審査員】どの団体も素晴らしい活動をされていて、最初に計画していたことだけに留まらずに、どんどん活動の場を広げていっていることが、「すごいなあ」と感じました。これからも、周りの人をどんどん巻き込んで、活動の場を広げていってほしいと思います。こうちこどもファンドに関わらせていただいて、とてもうれしく思います。



【小林審査員】皆さんの発表がとても上手で、自分自身も学ぶことが多くありました。来年度も、時間があればこうちこどもファンドに参加したいです。



【井上審査員】1年間の活動、お疲れさまでした。より良い高知が築けたと思います。私は来年度もこども審査員をさせていただくので、皆さんも活動を続けていただきたいと思います。



【片岡審査員】1年間お疲れさまでした。この1年間で色々なことを皆さんから学ばせていただきました。



【戸田審査員】1年間お疲れさまでした。皆さんが今やっている活動は小さな活動かもしれませんが、これまでやってきたことは決して無駄ではないと思います。これからも、次の代、また次の代に活動がつながっていくように頑張ってください。



【池上審査員】 お疲れさまでした。全ての団体の皆さんの発表が素晴らしく、僕も感動しました。こども審査員を経験して、これまではボランティア活動と距離がありました。これからは積極的に参加してみようと思います。



【廣井審査員】 1年間お疲れさまでした。「こんな活動がしたい」と目標を掲げて1年間活動してきたことは、皆さんの心強い御守りになると思います。これからも仲間との絆を大切に、活動を広げていってほしいと思います。



【山川審査員】 昨年6月に審査させていただいた時にもとても驚きましたが、今日皆さんの発表を聞かせていただいて、その驚きが2倍にも3倍にもなりました。ぜひ、今後も活動を続けていただき、この想いをずっとずっと持ち続けていただきたいと思います。本当にお疲れさまでした。



【古谷審査員】 1年間お疲れさまでした。私たち大人審査員も、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。「子どもがこんなに頑張っているんだから、大人も負けられん。頑張らないかん。」と、後ろから背中を押されたような時間を過ごすことができました。皆さん、この想いをずっとずっと持ち続けて、将来、第二の龍馬になるように頑張ってくださいと思います。



【新藤審査員】 私はこうちこどもファンドのしくみづくりの段階から関わらせていただきましたが、その時から「高知の子どもはすごい力を持っている」と思っていました。そして今回、こうちこどもファンドを通じて、本当に子どもたちが素晴らしくて、「高知が大好きになって、高知を大好きな子どもたちがまた増えて、私がまた高知のことが好きになって、地域の人が皆さんのことを大好きになって、高知のことを大好きになっていくんだなあ」と、温かい気持ちが色々なところでつながっていくというをすごく感じる事ができました。



【森田審査員】 皆さん、1年間本当にお疲れさまでした。今日ご出席の皆さんの中には、小学生から中学生へ、また中学生から高校生へ、新たなフィールドへ進んで行かれる方も多いと思います。私からの願いは、新しいフィールドに行かれても、新しいフィールドの仲間と一緒に、こうちこどもファンドに帰ってきていただきたいと思います。期待しております。

【審査委員長 講評】

卯月 盛夫 審査委員長(早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授)

今日、初めてこのような大空間の中で、小学生の子どもたちから私のような 60 歳近い方までが、同じ場で、3 時間近くの間を掛け、高知のまちづくりについて議論したり、質問したり、答えたり…。こんな場はおそらく日本にはないですね。もちろん、子どもたちが学ぶ学校や、地域の色々なサークルの中では、指導して下さるお父さんやお母さん、または教員の方たちなどとはコミュニケーションがあるかもしれませんが、これだけ多くの年齢層、また人数の方が一堂に会して、高知のまちづくりについて議論したことは、貴重なことで、このような共通の時間を持てたことは、歴史的な 1 ページだったと思います。

大げさに言うつもりはないのですが、これから日本全国の色々な自治体の中で、子どものまちづくりを大人がどうやって支えようか、どうやって子どもと一緒にまちづくりをやっていこうか、という試みがいくつか出てくると思います。それらのトップバッターとして、今日活動発表会が行われたということで、とても素晴らしい時間を過ごさせていただいたと、感動しております。

以前、このような取り組みをできないかと岡崎市長と相談していた時に、2 つの目標を掲げました。1 つ目の目標は「子どもたちが自ら高知のまちのことを考え、まちのことを好きになっていく、あるいは、高知のまちに住んでいる人たちと仲良くなる、という子どもたちが高知のことを学ぶ機会を増やし、そのことはきっと将来、難しい言葉で言うと『高知市民としてのシチズンシップ』、つまり高知市民であることや高知で生まれ育ったことを誇りに思うような子どもたちを増やしたい」ということです。これはおそらく、今日発表してくれた 10 団体の子どもたちはみんな持ってくれると思います。

もう 1 つの目標は、「子どもたちが活動することを通じて、大人たちが忘れてしまっているまちづくりや子どもの視点、あるいは発想などを、大人が再度学ぼう」というものです。

本日の賞には漏れてしまいましたが『PAPAS』の事例を挙げたいと思います。

『PAPAS』は「落書きを消そう」という、とても子どもらしい、高知のまちをきれいにしたいという発想で始まったと思います。しかし、それを実施していく中で、中心商店街の方たちと知り合って、また落書きを消す薬剤を販売する高知のメーカーの方とも知り合って、シャッターに落書きがされている商店街の方や、電柱に落書きがされている四国電力の方たちと話し合って、ひとつひとつ落書きを消す活動をする中で、多くの大人の方たちを巻き込んでいったのだと思います。「地元の子供たちが落書きを消す活動をしているのに大人は何もしなくていいのか」と感じて立ち上がってくれた大人の方たちがどんどん増えていったことが、私は想像できます。

市民のまちづくりや、子どものまちづくりの楽しさや原点は、とても素朴な、また小さいことかもしれませんが、その小さなことが、子どもたちが活動していく中で、どんどん大きく広がっていき、中心商店街から落書きが無くなりつつあるのだと思います。大人なら落書きを見て「仕方ないなあ」と諦めてしまうことを、高校生が消すことを発想して、それを大人が応援して高知のまちを明るくきれいにしていき、今日私が感動したのは、落書きを消すだけではなく、落書きを防止するためにはどうしたらいいか、ということを考えて始めていることです。これはまちづくりの原点だと思います。

もちろん、『キッズ土佐山』のように、シャッターに絵を描くということもまちづくりですが、マイナスの部分、ゼロにするだけでなく、さらにプラスに変えていくというまちづくりを『PAPAS』の方たちは活動する中で学び、今日多くの方たちの前で発表してくれたことは大きな意義があると思います。本当はひとつひとつの活動にコメントしていきたいのですが、『PAPAS』が特に素晴らしいと思いましたので、紹介させていただきました。

また太平洋学園の副校長先生のお話にも感動しました。子どものまちづくりを進めていくためには、出来るだけ子どもの自主性に任せようというのが原点ですが、困った時には大人が手を差し伸べてサポートすることがとても重要で、大人が出過ぎてしまうのはまずいですが、困った時は大人がアドバイスをすることが重要です。先ほどの副校長先生のお話は「太平洋学園は地域の中で色々問題があった。その中で、地域の町内会や、夜の大人の会合に副校長先生が出掛けていき、子どもたちのことや、こうちこどもファンドで何をやろうとしているのかを伝えた。」ということでした。きっとそのサポートがあったからこそ、太平洋学園の活動があったのだと思います。

こういった、子どものまちづくり活動を支えようとする大人の活動は、もちろん太平洋学園だけではなく他のグループも同じだと思いますが、素晴らしいと思いましたので紹介させていただきました。

さて最後に、こうちこどもファンドは岡崎市長の号令の下、税金を使ってスタートしました。ところが、昨年6月にスタートして、まだ1年経っていないのに、21もの企業・団体の方々がこうちこどもファンドの趣旨をご理解いただいて寄附をしてくださっています。もちろんほとんどが高知の企業の方々です。

大人が活動する「公益信託高知市まちづくりファンド」では、10年間続けてきて、寄附は数件だったように記憶しています。ところが、高知市が子どものまちづくりを日本全国に先駆けて始めると、21もの企業・団体の方々が「こんないいことなら」と浄財を寄附してくださった。これが高知らしい、高知の素晴らしいところだと思います。

活動する子どもたち、応援する大人たち、さらにそれを温かく応援する企業・団体の方たち、みんな高知市民の方です。高知市民の方たちがこうちこどもファンドを通じて、高知のまちをさらに好きになる、さらによくするスタートが今日きれたことを私はとてもうれしく思います。皆さん今後とも頑張ってください。



7 高知市子どもまちづくり基金 平成24年度寄附実績

こうちこどもファンドでは、この助成金制度の趣旨にご賛同いただける各企業や団体、市民の方を少しでも増やし、寄附金という形で支援をいただきながら、制度を継続していくため、基金取崩し方式を採用しています。

これは、「社会全体が自分たちを応援してくれている！！」と周りの温かい協力や支援を感じることで、子どもたちの自信につながると考えているからです。

平成24年度には、21の企業・団体・個人の方から計121万円のご寄附をいただきました。

今後、寄附という形のほか、地域・企業サポーターなど様々な支援の方法で、子どもたちの活動を応援して下さる方が増えることによって、より長く事業を継続することも、今後大切な取組みとなってくると考えています。

平成24年度 寄附者一覧

(敬称略)

高知市職員労働組合 執行委員長 明坂 浩	高知市本町 5-1-45
株式会社松井ビル 松井 誠一	東京都渋谷区神宮前 6-4-1
高知南ライオンズクラブ 会長 竹内 靖	高知市本町 1-6-24 高知商工会館内
株式会社高知タマモ 代表取締役 濱田 泰亘	高知市池字堀越 402-19
丸仁商事株式会社 代表取締役 下元 康弘	高知市南久保 7-27
高知スタンダード石油株式会社 代表取締役 手嶋 邦彦	高知市曙町 1 丁目 2-25
有限会社大石電機 代表取締役 大石 典明	高知市瀬戸東町 3-107
株式会社双電社 代表取締役 堅田 英信	高知市介良乙 3729-26
有限会社片岡電気工事 代表取締役 片岡 雅夫	高知市鴨部 973-2
パシフィックソフトウェア開発株式会社 代表取締役 中谷 正彦	高知市本宮町 105-22
三共工業有限会社 代表取締役 飯間 俊一郎	高知市一宮東町 5-34-54
株式会社シンテック 代表取締役 田所 伸雄	高知市一宮南町 2 丁目 6-23
田所 伸雄	高知市杉井流 9-11
株式会社四国ポンプセンター 代表取締役 西村 倫彦	高知市農人町 2-5
株式会社四国清掃工業 代表取締役 森国 勇	高知市南ノ丸町 12-7
西村商工株式会社 代表取締役 西村 倫彦	高知市農人町 2-5
福留開発株式会社 代表取締役 大場 智公	高知市南宝永町 19-11
株式会社セイミツ 代表取締役 小林 正典	高知市土居町 16-7
高知市旅館ホテル協同組合 理事長 宮村 耕資	高知市升形 5-34
東京テクニカサービス株式会社 代表取締役 高橋 吉久	高知市和泉町 6-8 ドコモショップ愛宕

※ ほか、1企業様から寄附がありました

8 アンケートの実施について

平成 24 年度は、初年度ということもあり、早稲田大学社会科学部研究科のご協力のもと、応募団体の子どもたちや、大人サポーター、そして審査する側で参加した「こども審査員」の意識の変化などを知るための、アンケート調査を実施しました。

アンケートは、事前説明会（申請前）、審査会（活動前）、活動発表会（活動後）と、活動の節目ごとに実施し、活動団体や審査員の子どもたちの意識の変化も見てとれます。また、大人サポーターのアンケートでは、子どもたちの成長を間近で見えて感じた喜びと、また、子どもたちとの関わり方や距離感に悩みながら活動をサポートした姿が見てとれる内容となりました。

※アンケート結果は資料編をご覧ください。

9 24年度の事業を振り返って～25年度への課題～

「こうちこどもファンド」の初年度は、子どもたちを主体とした制度確立が大きなテーマでした。まちづくり活動の発想については、まだまだ「子どもが全て考える」ということが難しい面もありますが、実際の活動では子どもたち自身が活発に取り組む姿を見ることができ、また、少しずつ活動に対する支援の輪の広がりを感じることができました。

10年後、助成を受けたグループの子どもたちが大人になった時に、地域の活動に積極的に参加できる「人財」となっている。また「こどもファンド」で活動した子どもたちが大人になり、大人のサポーターとなって帰ってくると、この事業を創設した意義と効果を実感できると思います。また、この事業をより長く継続するため、地域のサポーターや、寄附という形で応援してくださる方を増やすことも、今後大切な取組みになってくるものと考えています。

実際にこの「こうちこどもファンド」がスタートしてみると、見えてきた課題点や改善すべき点もありました。初年度の事業を振り返って、今後の課題として考えられるものを以下に挙げます。

① 審査会の運営・審査の方法

初年度は、審査会での審査（別室にて非公開で実施）が予定時間を大幅に超過してしまい、審査会全体の終了時間が予定より約1時間遅くなってしまいました。審査の方法（非公開のままとするのか、公益信託高知市まちづくりファンドのように公開審査とするのか）も含めて、平成25年度以降の審査会の運営方法については再検討が必要だと考えています。

② こどもファンドサポーター制度の整備

子どもたちが活動をする際に必要な物品や場所等の提供や、技術面でのアドバイスをいただける、また寄附等のこうちこどもファンドへの支援の輪を広げていただける、民間企業の方等による「こどもファンドサポーター」の創設が必要だと考えています。

③ 広報活動の拡大

高知の子どもたちの素晴らしい活動について、高知市内はもちろんですが、全国に向けて情報発信をしていくために、広報活動を拡大していく必要があると考えています。

具体的には、フェイスブック等のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）の活用等の検討が必要だと考えています。

これらの他にも、高知市役所内部での子どもたちの活動への応援体制の整備など、初年度に事業を実施し、見えてきた課題は多くあります。

しかし、参加した子どもたちから溢れ出るアイデアや、審査会で見せた鋭い洞察力や判断力を目の当たりにし、子どもたちの無限の可能性を感じることができました。これこそが、この事業の将来性であり原動力であると思っています。

「こうちこどもファンド」の最終目標である「こどもにやさしいまちづくり」が、「住む人みんなにとってやさしいまちづくり」につながっていくのではないかと確信しています。

資料編

- ★高知市子どもまちづくり基金条例
- ★高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱
- ★平成 24 年度審査会【一般来場者アンケート】
 - 【応募団体向けアンケート(対象:子ども)】
 - 【応募団体向けアンケート(対象:大人サポーター)】
- ★平成 24 年度活動発表会【応募団体向けアンケート(対象:子ども)】
 - 【応募団体向けアンケート(対象:大人サポーター)】
- ★平成 24 年度審査会【審査員向けアンケート(対象:こども審査員)】
- ★こうちこどもファンド募集チラシ
- ★「こどもファンド通信」創刊号（平成 24 年8月発行）
- ★「こどもファンド通信」第2号（平成 24 年 10 月発行）
- ★「こどもファンド通信」第3号（平成 25 年1月発行）
- ★「こどもファンド通信」第4号（平成 25 年3月発行）

高知市子どもまちづくり基金条例

(平成24年4月1日条例第23号)

(設置)

第1条 子どもたちが主体となって取り組む子どもまちづくり活動を推進することにより、本市の将来を担う人材の育成を図るとともに、本市におけるまちづくり活動を活性化させるため、高知市子どもまちづくり基金（以下「基金」という。）を設置する。

(基金の積立て)

第2条 基金として積み立てる額は、一般会計歳入歳出予算で定める。

2 基金をより効果的に運用するため、基金の設置目的に沿う市民又は法人その他の団体の寄附金は、前項の積立額に充てることができる。

(管理)

第3条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

2 基金に属する現金は、必要に応じ、最も確実かつ有利な有価証券に代えることができる。

(運用益金の処理)

第4条 基金の運用から生ずる収益（以下「運用益金」という。）は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金の設置目的を達成するために行う事業の経費に充てるものとする。

2 前項に定める事業の経費に充当したものを除き、運用益金は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金に積み立てる。

(処分)

第5条 市長は、基金の設置目的を達成するため必要があると認めるときは、一般会計歳入歳出予算の定めるところにより、基金の全部又は一部を処分することができる。

(繰替運用)

第6条 市長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

(委任)

第7条 この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、高知市子どもまちづくり基金条例（平成24年条例第23号）第1条に規定する基金の設置目的を達成するため、高知市子どもまちづくり基金助成金（以下「助成金」という。）を交付することについて、補助金等の交付に関する条例（昭和29年条例第19号）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(助成対象団体)

第2条 助成金の交付の対象となる団体（以下「助成対象団体」という。）は、次に掲げる要件のすべてを満たす団体とする。

- (1) 本市に在住又は通勤若しくは通学している18歳以下の子どもが3人以上いること。
- (2) 団体の責任者及び監査として、20歳以上の大人が2人以上いること。
- (3) 活動の目的が明らかであり、当該助成に係る事業を自主的に行えるものであること。
- (4) 複数の世帯で構成される団体であること。
- (5) 過去に、同一の事業についてこの要綱に基づく助成金の交付を3回以上受けていないこと。
- (6) 団体の運営に関する規約、会則等を定めており、適切な会計処理が行われていること。

2 前項の規定にかかわらず、助成対象団体が、高知市事業等からの暴力団の排除に関する規則（平成23年規則第28号。以下「規則」という。）第4条各号のいずれかに該当すると認める場合は、助成金の交付の対象としない。

(助成対象事業)

第3条 助成金の交付の対象となる事業（以下「助成対象事業」という。）は、本市内において、子どもが主体となって取り組むまちづくり活動に係る事業とする。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる活動は助成対象事業としないものとする。

- (1) 営利を目的とする活動
- (2) 宗教的又は政治的な活動
- (3) 学校の授業の一環として行う活動

(助成対象経費)

第4条 助成金の交付の対象となる経費（以下「助成対象経費」という。）は、助成対象団体が行う助成対象事業に要する経費とする。

(助成金額)

第5条 助成金額は、助成対象経費の額を限度として予算の範囲内において、市長が認める額とする。

(助成金の交付申請)

第6条 助成対象団体は、助成金の交付を受けようとするときは、助成金交付申請書（様式第1号）に、必要書類を添えて、市長に申請しなければならない。

(助成金の交付決定)

第7条 市長は、前条の申請があったときは、その内容を審査し、助成金の交付の可否を決定し、適当と認めるときは助成金交付決定通知書（様式第2号）により、適当でないとき認めるときは所定の助成金交付却下通知書により当該申請をした助成対象団体に通知するものとする。

2 市長は、助成金の交付決定に際し、必要な条件を付することができる。

(交付申請の取下げ)

第8条 前条第1項の規定により助成金の交付決定を受けた助成対象団体(以下「助成事業者」という。)は、その内容又はこれに付された条件に不服があり、交付申請を取り下げようとするときは、当該交付決定の通知を受けた日から2週間以内に、その旨を所定の助成金交付申請取下届出書により市長に届け出るものとする。

2 前項の規定による申請の取下げがあったときは、当該申請に係る助成金の交付決定はなかったものとみなす。

(変更承認等)

第9条 助成事業者は、助成金の交付決定を受けた事業(以下「助成事業」という。)について、事業内容を変更し、中止し、又は廃止しようとするときは、あらかじめ助成事業変更等承認申請書(様式第3号)により、市長に申請し、その承認を受けなければならない。

2 市長は、前項の申請があったときは、速やかにその内容を審査し、変更等の可否を決定し、所定の助成事業変更等承認(否認)通知書により当該申請をした助成事業者に通知するものとする。

(実績報告)

第10条 助成事業者は、助成事業が完了したときは、速やかに実績報告書(様式第4号)に、関係書類を添えて市長に報告しなければならない。

(助成金額の確定)

第11条 市長は、前条の報告があったときは、速やかにその内容を審査し、助成事業の成果が助成金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき助成金額を確定し、助成金額確定通知書(様式第5号)により助成事業者に通知するものとする。

(助成金の交付請求及び交付)

第12条 助成事業者は、前条に規定する助成金額の確定通知を受けたときは、助成金交付請求書(様式第6号)により市長に助成金の交付を請求するものとする。

2 市長は、前項の請求があったときは、速やかにその内容を審査し、適当と認めるときは、助成金を交付するものとする。

(助成金の概算払)

第13条 市長は、助成事業について必要があると認めるときは、助成金の概算払をすることができる。

2 助成事業者は、概算払を受けようとするときは、助成金概算払請求書(様式第7号)により、市長に請求しなければならない。

(助成金の交付決定の取消し)

第14条 市長は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当したときは、助成金の交付決定を取り消すことができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により助成金の交付を受けたとき。
- (2) 規則第4条各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 助成金を助成事業の目的以外に使用したとき。
- (4) 助成事業の実施方法が不相当と認められるとき。
- (5) 助成事業を中止又は廃止したとき。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、助成金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他この要綱に基づく命令に違反したとき。

2 前項の規定は、助成事業について交付すべき助成金額の確定があった後においても適用があるものとする。

3 市長は、第1項の規定による取消しをしたときは、所定の助成金交付決定取消通知書により、助成事業者へ通知するものとする。

(助成金の返還)

第15条 市長は、前条第1項の規定に基づき助成金の交付決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消しに係る部分に関し、既に助成金を交付しているときは、期限を定めて、その返還を命じなければならない。

2 市長は、助成事業者へ交付すべき助成金額を確定した場合において、既にその額を超える助成金を交付しているときは、期限を定めて、当該確定した助成金との差額の返還を命じなければならない。

(調査等)

第16条 市長は、助成事業の適正な執行を確保するために必要な限度において、助成事業者に対し、書類の提出若しくは報告を求め、又は必要な調査をすることができる。

(整備保管)

第17条 助成事業者は、助成事業に係る帳簿及び関係書類を整備するとともに、助成事業の完了した日の属する年度の翌年度から起算して5年間保管しなければならない。

(その他)

第18条 この要綱に定めるもののほか、助成金の交付に関し必要な事項は、市長が別に定める。

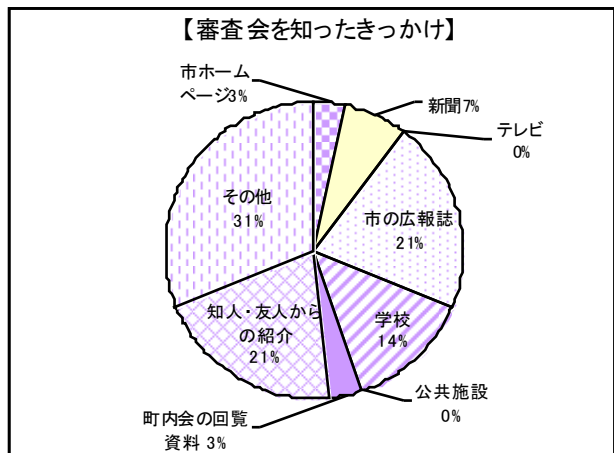
附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

平成 24 年度審査会 【一般来場者アンケート】

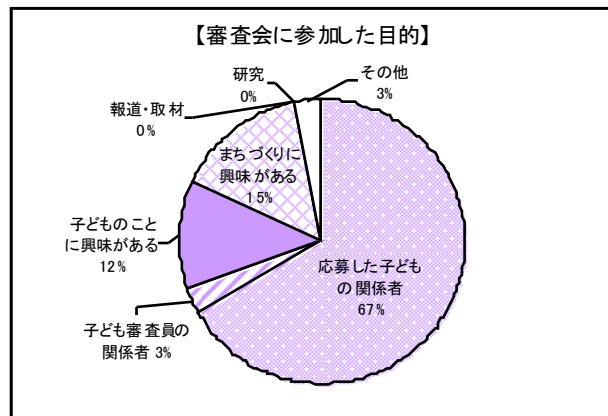
問1 審査会について何で（どこで）知りましたか。

- 1 市ホームページ
- 2 新聞
- 3 テレビ
- 4 市の広報誌
- 5 学校
- 6 公共施設
- 7 町内会の回覧資料
- 8 知人・友人からの紹介
- 9 その他



問2 本日の審査会に来た目的は何ですか。（複数可）

- 1 応募した子どもの関係者であるため
- 2 子ども審査員の関係者であるため
- 3 子どもものことに興味があるため
- 4 まちづくりに興味があるため
- 5 報道・取材のため
- 6 研究のため
- 7 その他



問3 本日の審査会についてどのような印象を持ちましたか。

- ・子供たちが自主的に活動をおこし、地域からの支援を受け活動する機会が設けられているのは素晴らしい。もっともっと広がって、より洗練されていくといいと思う。
- ・子どもたちが精一杯やっており、好印象でした。
- ・応募した方も審査した方もいい経験ができたように思います。子どもたちも自分達のしたいことを人に伝えることでやる意義をあらためて感じる事ができたと思います。
- ・質疑応答のやり取りが小学生には難しいように感じた。発表は各団体、よく工夫して頑張っていた。
- ・プレゼン、質問ともに子ども中心の議論がされ、嬉しく思いました。
- ・子どもたちが活発に発表、質問していて、見ていて楽しかったです。
- ・子ども審査員が予想以上に積極的に発言しているのに驚きました。質問内容もバラエティに富んでいて楽しい。
- ・初開催お疲れ様でした。良い取り組みですね。第1回をステップに2回目以降さらに発展してください。
- ・プレゼンする子どもの後ろに大人のそれぞれの関わりが見えて考えさせられた。子どもたち自身がどんな思いを自分たちの仲間とち、何をやっていいのかわからなかったり見えなかつたりしたから…。
- ・こども審査員の質問がユニーク。それにまじめに答えようとするこどもたちもいじらしく…真剣なやりとりが大人には大変おもしろかった。
- ・こどもたちにプレゼンの力をつけるとともに、まちづくりに積極的に関わってもらう良い機会になったと思う。
- ・高知のこどもたちを頼もしく思いましたが、大人達の熱気もすごいですね。子どもたちの自発的・創造的活動をひきだすきっかけになるファンド・審査会だと感じた。
- ・子どもたちがはっきりと声を出して、それぞれのチームにあった質問ができていたと思う。大人より多く質問があったように感じた。

- ・審査員からのきびしい質問は、良い経験になったと思います。
- ・第1回目ということではいろんな面から心配していましたが、会場もいっぱい良かったです。13団体の参加は手ごろだったかなと思いますが、参加団体が増えた場合、対応はできるのかと心配。
- ・ファンドの設置、そしてこのような場が設けられること自体が素晴らしいと思います。
- ・子ども中心の審査。思わぬ質問が出てびっくり。子どもとまちづくりに入れることがぜひとも必要。
- ・質疑応答の質問が小学生にとっては難しかったと思います。

問4 何か改善したほうがいいと思うことはありましたか。

- ・会場が狭い。子どもたちのつくった模造紙・プロジェクターが見にくかった。
- ・時間スケジュールの見通しがほしい。今回は特に子どもが関わっており、長時間の拘束が非常に負担になると思う。
- ・時間が長すぎると思いました。子どもも明日は学校があるし、付き添いの親も仕事があったりで、次の日につかえてきます。もう少し短くする方法を考えていただけるとありがたいです。
- ・団体数が多く、聞いていて疲れます。審査員はもっと大変だと思います。何か対策はないでしょうか？
- ・ファンドの開催時期で活動が制約されないようにしてほしい。地域との関わりは年間を通じて行われているので。
- ・大人の審査員の質問ももっとあってもよかった。将来的にどう伸ばすかという点。
- ・サポートする大人の答えられる時間もあればいいと思います。中高生は自分達で答えられるけど、小学生にはすべて答えるというのは難しいと思います。
- ・各団体のバックにいる大人の組織を明らかにしてほしい。
- ・企画内容に大人の意向が大きく見えるので、上限に10万程度が良いと思います。公開審査も検討です。
- ・審査会についてはありません。洋行さんが言われたように「大人のやりたいことに子どもを利用してはいけない」大人のかかわり方を大人が学んでいける（気づいていける）場があれば嬉しいです。
- ・待機中の団体の態度が悪いことがチラチラありました。
- ・子どもが審査に加わるのがとてもいいと思ったので、審査の子どもたちもグループづくり、そしてどういう視点で見るとかも協議するという形態に進化していった方がいいのではないかと。

問5 子どもがまちづくりを行うことをどう思いますか。

- ・大変よい。これはまちづくりの問題でなく教育に関わる事業だと思う。
- ・こどものときから地域について考え行動することは社会性を身につけるよいきっかけになると思います。
- ・将来に向け、積極性も生まれ、大変良いことだとも思う。高知らしい。
- ・子どもたちが親世代になって、まちづくりに活発に関わっていける基礎になりそうで良いとおもいます。
- ・自分のまちが好きになる良いこと。住民が仲良くなる。昭和の頃のようなまちになる。
- ・子どもが大人と一緒に地域のことを考えるのはよいことだと思う。
- ・子ども主導の企画実施はとても頼もしく感じます。もっと広めてほしいです。
- ・まちづくりを子どもたちが仲間とともに考え行う機会があることはとてもいいと思います。（大人主導ではなく）
- ・子どももまちの構成員であり当然。住民として近い将来自治を担うことを思えば早くから意識を持つべきだと思う。
- ・自分の住んでいる町、周りにいる人たちに興味を持ってつながっていくことはとても大事なことだと思う。見守る大人がいる中で、子どもたちがまずたっぷり遊んだ上で活動を作っていくしてほしい。
- ・当然だと思います。こういう意見発表やその反映がなされる場が各地にあればいいと思います。

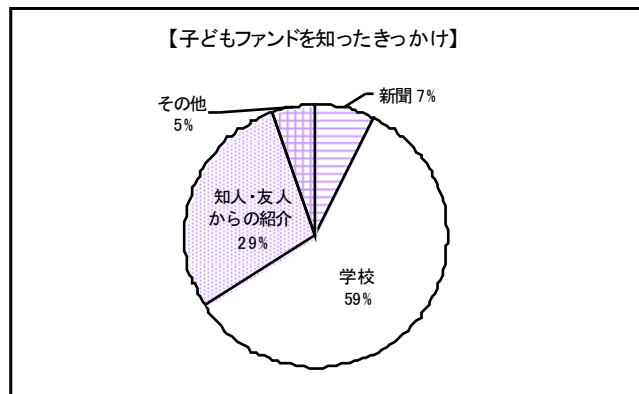
問6 子どもが審査に加わることをどう思いますか。

- ・良いが大人の意見も重要ですね。
- ・子どもならではの視点があり、大人からの意見より、同じ世代からの意見の方が納得できたと思います。
- ・素直な疑問もあったが、的外れなものもあった。しかし今回の子ども審査員はよく関心をもって聞いていたと思う。
- ・大人にはないし、なくなってしまった視点があってもいいと思います。
- ・いろんな質問が出てよいが、各世代1~2名でよい。
- ・大人とは違う発想が面白く好ましいと感じます。
- ・とてもいいと思います。かわいい、すごく学びになる。
- ・もちろんちぐはぐな部分もたくさんありますが、とてもいいと思います。将来を考えつくっていく人たちがお互いに体験する場として。
- ・おもしろい。ただ審査員がどういう子どもたちなのか、（どういう経緯で選ばれたのか）がわかるとよかった。
- ・子どもの質問の中には非常によい視点のものがあったが、中には審査に関係なく興味をもっただけのものもあった。
- ・大人にはない発想もありおもしろかった。子ども審査員に質問されることで、素敵な反応・応答ができていた。
- ・子ども側の質問でファンド内容に深まりを感じた。
- ・子どもならではの質問がありとてもよかったのですが、活動の全体像がつかめないうまに質問していたりするので、事前の内容をしっかりとっておくことが大事だと思います。
- ・審査員になることで、自分も自分のまちで何らかの役割を持つようとするのではないかと。

平成 24 年度審査会 【応募団体向けアンケート（対象：子ども）】

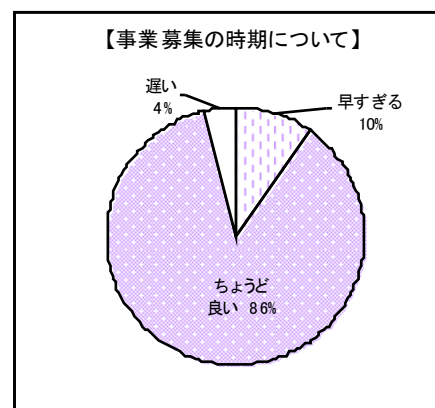
問1 審査会について何で（どこで）知りましたか。

- 1 市ホームページ
- 2 新聞
- 3 テレビ
- 4 市の広報誌
- 5 学校
- 6 公共施設
- 7 町内会の回覧資料
- 8 知人・友人からの紹介
- 9 その他



問2 事業募集の時期について、どう思いますか。

- 1 早すぎる
- 2 ちょうど良い
- 3 遅い



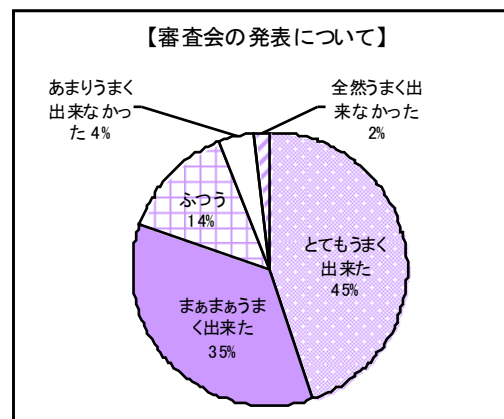
問3 希望する時期はいつですか。

（問2で早い・遅いと答えた方）

- ・ 5月～6月
- ・ 4月23日～5月30日
- ・ 2月～3月
- ・ 3月28日～5月28日
- ・ 6月5日～10月5日

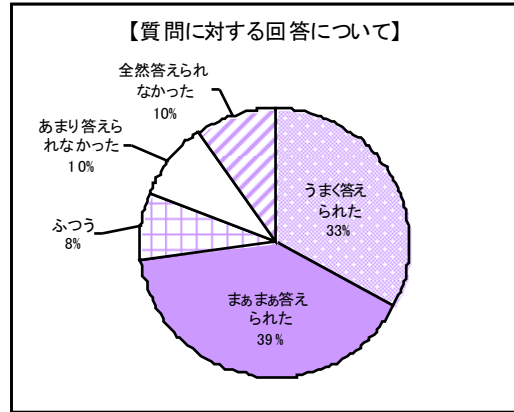
問4 発表はうまくできましたか

- 1 とてもうまくできた
- 2 まあまあうまくできた
- 3 ふつう
- 4 あまりうまくできなかった
- 5 全然うまくできなかった



問5 審査員の質問にきちんと答えられましたか

- 1 うまく答えられた
- 2 まあまあ答えられた
- 3 ふつう
- 4 あまり答えられなかった
- 5 全然答えられなかった

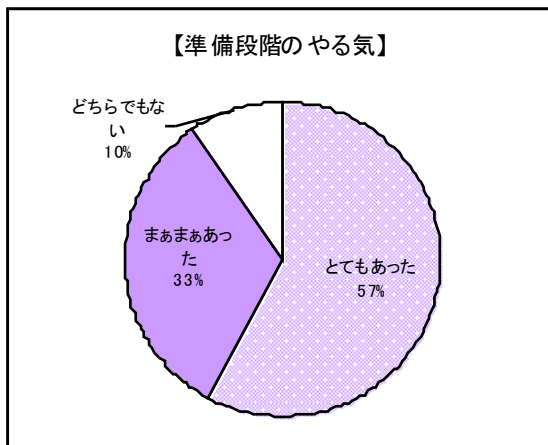


問6 他のグループの発表、質疑応答を聞いてどう思いましたか。

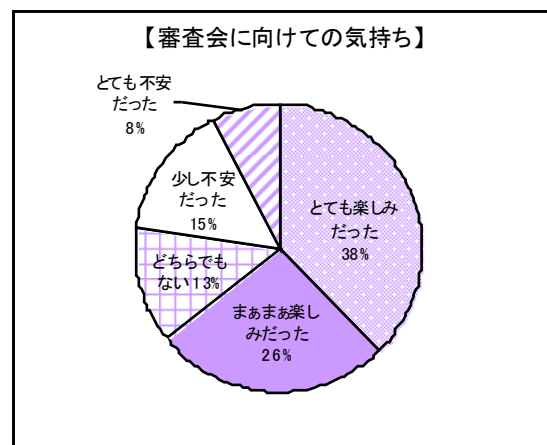
- ・自分達の街をよくしたいという思いが伝わってきた。他のグループに、これはやったほうがいいというのがあった。
- ・他のグループの人たちの発表内容は、内容がつまっていて分かりやすいものが多くて素晴らしかったと思う。質疑応答については、小学生の人もたくさん質問していてすごかった。
- ・素晴らしい発表を見せてもらい、こういう活動があったがや、とすごいと思いました。
- ・他のグループの披露と、質問に答えたグループを見習いたいです。
- ・横浜中学校の人たちの発表が良かったです。中学生や高校生になってくると、質疑応答のとき難しいことを聞かれています。
- ・質疑にしっかり答えていた。自分の考えがしっかりあらわされていた。
- ・これは町づくりのためにしていいと思うのがほとんどだった。
- ・すごいと思った。私達ももっと工夫したいと思いました。
- ・自分達の企画なのに、発表を終え、質問が出た瞬間に応答につまったりしていて、どこもすぐには答えられていなかった。企画の内容をちゃんと把握しておくことが大切だと思った。
- ・これはいいなと思う活動がいくつかあったし、質問も鋭いものが多く面白かった。
- ・質疑応答では考えていなかったことや気づかなかったことなどを改めて考えられたので良かったです。
- ・厳しい質問をしてくる人が多くて答えるのが大変だった。
- ・中高生以下のグループはあまりうまくできていなかった。
- ・どのグループもみんな時間をかけてのぞんでいることがヒシヒシと伝わってきた。どの発表も素晴らしかった。
- ・小さい子どもでもしっかり受け答えできていて素晴らしいと思った。
- ・質問は、自分たちでも気がつかないところを指摘されてあせりました。小学生の子たちも自分なりに考えて答えることができていて良かったと思います。
- ・他のグループの人たちもいろんな案を考えてできていたので良かったと思います。
- ・しっかりと地域の人のためになることを考えてきた団体がいたが、それに反して自分達が楽しみたいだけという案もあって、少し気落ちした。

問7 これまで考えていたことと現在考えていることについて当てはまるものはどれですか。

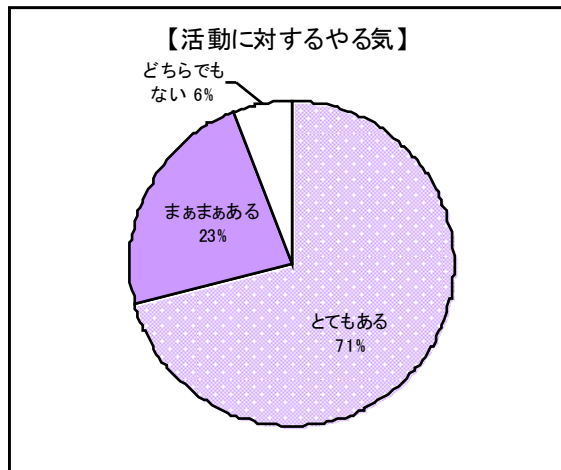
(1) 準備のときのやる気



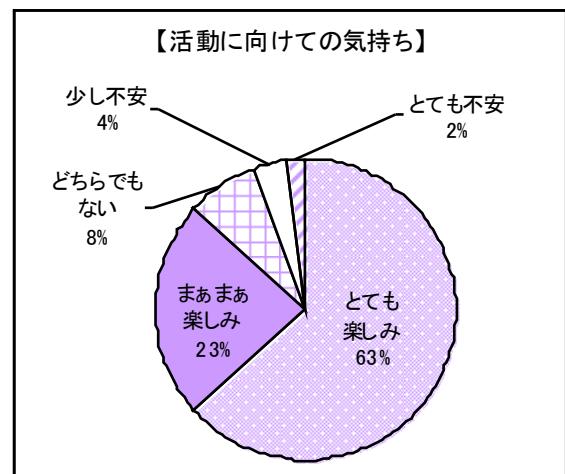
(2) 審査会に向けての気持ち



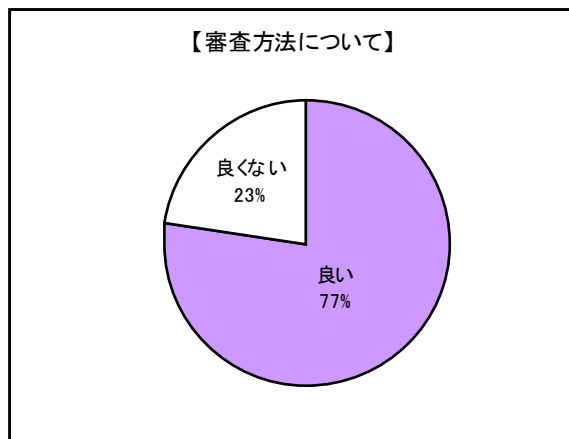
(3) 今後の活動についてのやる気



(4) 今後の活動に向けての気持ち



問8 審査会での審査方法についてどう思いますか。またその理由は。



(理由)

- ・子どもの目線も考えて、子ども審査員を作ったのがいい。
- ・公開してほしい。
- ・詳しいところまで聞いてくれてうまく説明できた。
- ・分かりやすく質問してくれたから。
- ・時間がかかりすぎる。
- ・子どもの考えを一番に取り入れているから。
- ・質疑応答の時間が足りない。
- ・質問がすどかった。
- ・色々な年の人がいていいと思います。
- ・子どもと大人、両方の意見が聞けてよかった。
- ・どれも今後に関わってくる質問だったから。
- ・みんなの意見が反映されていたから。
- ・表現豊かで色々な意見を知ることができてよかった。
- ・いろんな見方の質問がきて、新しい発見につながったから。
- ・時間もかかったけど、しっかり審議してくれていたのでもいいと思います。
- ・相応の結果が出ていたから。
- ・大金が動くのであれくらいの方がちょうど良い。

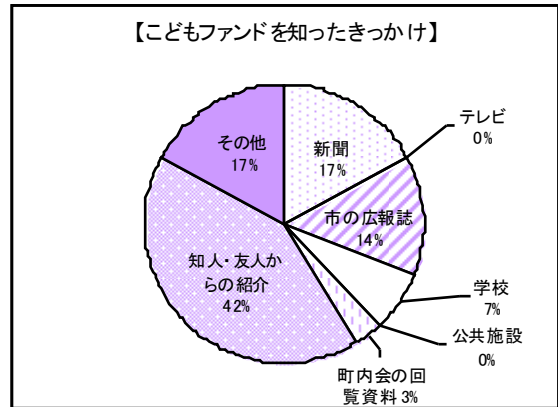
★そのほか 審査会でもっとこうして欲しいという点は

- ・各団体に対して、こども審査員のうち、一人でもよいのでコメントをくれるとさらに良くなると思います。時間がなかったのではないとは思いましたが…。
- ・質問をもっとわかりやすく、やわらかくしてほしい。
- ・高校生の質問がむずかしかった。高校生のプレゼンは高校生が、小学生のプレゼンは小学生が審査してほしい。
- ・質問がまだ残っているのに、質疑応答を終わらせずに出なくなるまでしてほしい。そのほうが審査しやすくなると思う。
- ・もっと知識のある審査員を用意してほしい。
- ・審査の時間が長いと思った。
- ・もっと笑顔でいてほしいです。もっと決める時間を短くしてほしい。

平成 24 年度審査会 【応募団体向けアンケート（対象：大人サポーター）】

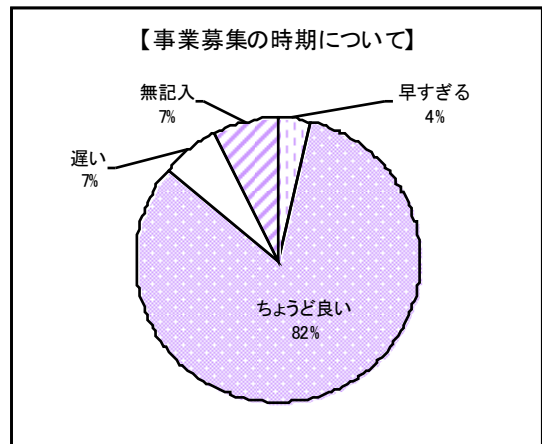
問1 こどもファンドについて何で（どこで）知りましたか。

- 1 市ホームページ
- 2 新聞
- 3 テレビ
- 4 市の広報誌
- 5 学校
- 6 公共施設
- 7 町内会の回覧資料
- 8 知人・友人からの紹介
- 9 その他



問2 事業募集の時期について、どう思いますか。

- 1 早すぎる
- 2 ちょうど良い
- 3 遅い



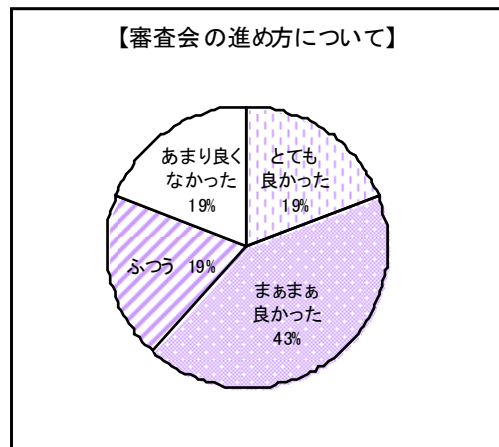
問3 希望する時期はいつですか。

（問2で早い・遅いと答えた方）

- ・5月～6月（ファンドの説明会の最終日から締め切りまでが短く、準備が大変でした。）
- ・4月初旬～5月末
- ・時期はいいが期間が長い。5月の2週間位でいいのでは？
- ・前年度の1月～3月

問4 審査会の進め方をどう思いましたか。

- 1 とても良かった
- 2 まあまあ良かった
- 3 ふつう
- 4 あまり良くなかった
- 5 全然良くなかった



- ・初めての経験にもかかわらず、審査員の質問や評価姿勢がとても具体的で、精一杯確認し判断していることが素晴らしいと感じました。
- ・子どもたちのプレゼンもよく考えられていて、質問に対する答えも素直でよかった。子ども審査員が事前に申請書

を読み込んできていることもよくわかりました。大人がどう関わるかというところに苦勞のあとが見えました。

- ・初年度ということもあって、ある程度スムーズさを欠くのは仕方ないと思います。プレゼンと審査員の関係はファンド決定のための重要なものです。審査員の側は、質問の内容がファンド決定の材料として必要なものかどうか、あるいは意図してプレゼンで表しきれない事柄を引き出す目的があつてのものかどうかを念頭におこなうべきかと思いました。プレゼン側は、突然データの・金銭的な質問を受けたとき、子どもが真偽も怪しい答えを堂々としている場面もあり、こういった質問に関しては大人サポーターの回答も必要かと感じました。
- ・難しいかもしれませんが、小学生の部、中学生の部、高校生の部と時間を区切っていただければと思います。小中が一緒のときは主な活動メンバーに合わせるとか。
- ・審査員がなるべくむらなく発言すると、さらに多様な進め方ができたように感じる。
- ・気持ちのよい進行であったこと。公平さがあつたこと。
- ・初年度で公開、ということをお考えれば進め方としては良かったと思う。
- ・初めての取り組みとしては大成功だったと思う。小中高生の代表としてふさわしい審査員の顔ぶれだと思いました。
- ・各応募団体が、どのような人々で、どのような年齢構成で、どのような内容のものを提案しているのか。また、そこにはどのような大人が関係し、大人と子どもの関係はどうなっているのかなど、各応募団体の概要が知れてよかった。進め方についてはうまく考えられていたと思うが、やや急ぎ足であったように思う。
- ・質問内容が小学生にとってはやや難しい、厳しいと思われる場面がありました。
- ・時間がかかりすぎ。発表と審査の日程を別々にしてもらいたい。
- ・耳の不自由な方への配慮もできており、素晴らしかったです。
- ・いい意味での緊張感と盛り上がりがあり、また子ども審査員といったような新たな試みも良かったと思います。本校案は幸い通りでしたが、できれば全部通してあげたかったですね。
- ・時間が短い。ステージが狭かった。

問5 これから子どもたちが進める活動について、今どのように思いますか。(期待や不安など)

- ・具体的に、主体的に周りの人たちと協力しあいながら進行し、結果をつくっていくことは、とてもよい経験になるもの、そしてまわりにも影響を与えることと思っています。
- ・時間がないのでサポートすべきところはどこまでか、しっかり話し合っていきたいと思います。
- ・自分達で考えて行動する。その自主性を引き出すように大人がどのようにサポートするかは試行錯誤ありですが…。事業を進めるために毎日日曜日に集まり、話し合い作業を進めていく姿を頼もしく楽しみに思っています。
- ・この活動で自ら主体となって活動していく姿勢や具体的なノウハウ・経験・他の人の喜びを考える精神を身につけてほしいと思います。子どもたちに全面的に任せて活動しているので、かたわらで見守る大人たちはハラハラドキドキしていますが、なるべく口を出さず、見守る(待つ)姿勢を保つことが思いのほか大変だと実感しています。
- ・とにかく子どもがいないので、個々の子どもに負担がかかるが、地域からの期待も大きいので活性化のためにできることは何でも取り組んでいきたい。しかし、もうぎりぎり一杯かもしれないが。
- ・大人の援助も必要だが、子どもたちががんばった達成感が感じられるようにしていきたい。
- ・地域の人たちの協力を得て活動していく中で、親任せにせず自分達で色々な意見等を出し合い、リーダーシップをとっていけたら子どもたちには期待をしている。
- ・小学校や地域でもプレゼンをやらせてもらい、実行に向けて動き出した、という実感が強まり、よいものができそうだなと期待(希望)している。本当にできるのか大人は不安のほうが大きかった。今も…やっぱり不安かも…。
- ・失敗を恐れずがんばってもらいたい。
- ・きちんとした情報が伝わるのが大事だと思う。お金の使い道、動機目的などがある団体が見極めが必要と思う。
- ・土日の活動が中心になりますが、部活動を頑張っている子どもが多く、その両立と参加人数に不安があります。
- ・地区の人と交流する機会が増えることを期待する。
- ・その時その時に出てくる問題を、子どもたちがどのように相談し、乗り越えていくのか楽しみにしている。活動自体の内容はもちろんだが、それ以上に、子どもたちがその活動にどのように取り組み、何を感じ、どういう大人に成長していくのか。40代50代になった際に、その活動が子どもたちの意識の中で、どのような存在として位置づいているのか。子どもたちの様々な意味での成長につながればよいと思う。
- ・このような行動をとることで街がどのようにかわるのか、その変化に期待しています。またこういった行いが次世代へとつながっていくことにも期待しています。
- ・構想や発表準備段階までは生徒達も乗り気になって順調にきました。これから具体的な活動に入っていきますが現在の気持ちをいかに継続して具体的な成果につなげていくかこれからの課題です。
- ・とてもありがたいです。社会的に承認されたことで、地域での活動もしやすいし、財源的にも受益者負担とボランティアの金銭的援助は継続という点ではとても不安定。
- ・子どもが学校だけでは考えられない経験できない体験や知恵を出し、とても良いと思います。期待しています。
- ・子どもたちが将来、地域の中で中心となっていくことを期待しています。自分達の町内会を見ても、30~50代の参加が少ないのが残念なので、子どもたちが、将来、地域で必要とされる存在になってほしいと考えています。

問6 事前準備と審査会の発表終了時を比較し、子どもたちに意識や行動の変化は感じられましたか。

- ・自分達が仕上げたものを大勢の前で伝え、アピールすることにより、自信とこれからの構想をそれぞれが意欲的に話し合い取り組めるようになってきていると思う。

- ・他の団体の発表を聞くことで、みんながんばっていることを知り、刺激になったと思います。発表をやりとげ、助成が決まったことで、ちゃんとしなくてはという気持ちが高まっていると思います。
- ・自分達で準備・練習、発表までしたので達成感があったようです。責任の重大さをひしひしと感じているようです。
- ・自分達が意見を言う、実行する、責任を持つということを嫌がらずに積極的にやっという姿勢が見られる。
- ・プレゼンの場で、自分達の予想しなかった質問にさらされて、これまで自分達の会の中だけで活動していた子どもたちの中に、外部や社会に向けて発信することの難しさを知った感があります。しかし社会や地域の満足、喜び、ニーズを知るためにはそういった感覚も必要なのでよい経験になりました。
- ・子どもが常に高い意識をもっているのが大丈夫だが、校区外の児童も多く、親の協力が不可欠。
- ・審査会に合格することを目標としていたので目標がクリアになったことで、実際に事業を進めていくことに気持ちの切り替えが難しかった。審査会が終わり、燃え尽きた感があったが、少し時間がたちやる気も出てきたようである。
- ・目標に向かって何をしたらよいのか、自分達で少しずつ計画を立てるような気がします。
- ・かなりつつこんだ質問を審査員がしてくることに、簡単に助成はしてもらえないことを身をもって知ることができました。そのためにリハーサルなどの大切さや、プレゼンの工夫の必要性を実感していました。
- ・特に大きな変化はないと思います。
- ・生徒達の中には、自分達の学校がある地域がどのような場所でどんな問題があるのか、主体性を持って考え始めた人もいるのではないかと感じている。
- ・初めはこの話をもっていったとき、あまり乗り気でない子もいましたが、話をつめていくうちに、みんなが主体的に考えることができるようになり、意欲的に取り組むことができるようになりました。
- ・辛いことに審査会も何とか無難にこなし助成を受けられることに決定したことは子どもたちへの大きな喜びと自信につながりました。これからの活動への原動力となったことは間違いありません。
- ・子どもなりに安心と安定が見られます。大人以上にのびのびと活動しています。

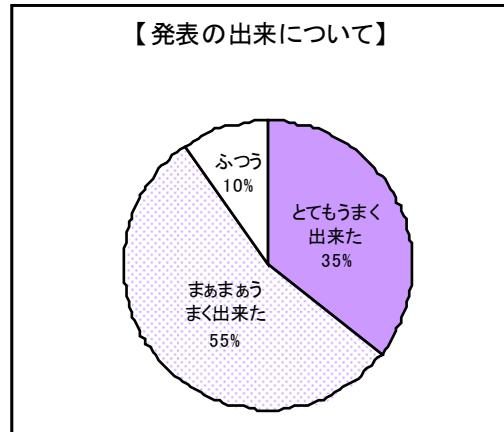
問7 審査会でもっとこうして欲しいなど気づいた点があれば書いてください。

- ・小・中・高校生審査員プラス大学生が入ることにより、より子ども審査にも幅がで、人を育て、社会を見る大学生（及び高卒で働いている方とか青年）も学べる機会にもなるのではないのでしょうか。
- ・審査に時間がかかるのなら、当日発表でなくてもよいのではと思いました。
- ・子どもたちが自分で考え自分で動く活動が他にあれば紹介したりなど審査員が退室している時間に行なってほしいです。取材の方、記録の方などが、子どもの動線をふさいでいることが再々見受けられたのがとても気になりました。
- ・申請書を書くときや、子ども審査員のそばにサポーターがつくというのは、よいことだと思います。審査員の中で大人と子どもの関係がよくわかりませんが、子ども審査員の意見を尊重するということをしなが、大人の知恵と経験をうまく生かして審査していただきたいと願います。
- ・こどもファンドという名がしっくりくるのはどういう形かと考えさせられました。子どもに全面的に任せると言いたいことは分かるが、何やら要領を得ない形になり、かと言って大人に作りこまれた活動を子どもがこなすのも違和感がある。対象年齢を小学5・6年生以上というように設定する方法もあるのでは？まちづくりというボランティア的なものが集まりがちですが、今後もっとスケールの大きな夢のある活動がでてくればいいな。
- ・質問に対する答えについて回答するのにはやや難しい内容もあった。大人と相談できるシステムがあっても良い。
- ・質問者は子どもに対するのにあたたいものであってほしいと思った。事業仕分けの手法などは関係ないと思った。
- ・各団体の予算を少しづつカットしてあと3団体にも少し助成があっても良かったのではと思った。オールオアナッシングが気になった。発表のまとめ方が上手にできなかったために不採用になったような気がしてならない。各地域を良くしたいという子どもの思いを感じてほしかった。逆の立場だったらとつらくなります。小学生には特に。
- ・審査時間がもう少し短くなればと思いますが、子どもたちの意見の取りまとめなど難しいかなと思います。
- ・思っていた以上に拘束時間が長かった。審査結果を待つ間の時間設定（2時間後に再度集まる…など）今回のことも審査員は事前にかなり勉強していて感心したが、やはり小5から高3までは8年の差があり、意図や認識（意思疎通）が発表者と審査員とでイコールとは思いたい場面も多々あった（だから良い面ももちろんあります）。全員が一票ではなく、小学生（高校生）チームのプレゼンに対しては小学生（高校生）審査員は二票持っても良いのでは。
- ・小学生には厳しい質問があって、質問と答えがかみ合わないところもあり、多少の調整が必要ではないだろうか。
- ・他の団体と話したり、交流できるだけのフリータイムもあればいいですね。
- ・中学校は、この時期期末テスト週間に入るため、リハーサルを含めた終日日程は厳しかったです。
- ・子どもたちが行う質疑応答は、どのような質問を想定しているかをある程度、事前につたえていた方が、質問をする側、答える側、聞いている人にとってよいのではないかと感じた。
- ・審査結果が出るまでに、予想以上の時間が掛かっているのは仕方ない。ただ、子どもたちは朝からの審査会で疲れているし、中には時間の都合で帰らないといけないう子もいる。関係者を待たせて当日に審査結果を言うのであれば、もう少し結論に導く工夫が必要なのではないか。不採用になる団体があるならなおさら後日の通知で良いように感じ、当日に結果を伝えることの積極的意味が感じられなかった。また不採用になる団体があるならば、公の場で審査結果を発表しない方がよいのではないか。大人には様々な事情が読込めても、とりわけ小学生くらいの子どものたちには、結果として落選したという事実が、大きく響いてしまうのではないか。子どもの成長過程の一つとして、採用されたほうはいいが、みんなの前で落選を告げられた子どもたちはどうなるのか。結果の伝え方に一考を。
- ・緊張感を持って発表できたことは大いに彼らにも勉強になりましたし、他の発表を聞け刺激になったと思います。
- ・子どもが審査に加わることは良いと思いますが、子どもの判断で金銭が動くのだろうかとかと内部がわかりませんので、ふと思います。（小遣いの範囲ではない大金なので…）
- ・駐車場代が高いので、会場についてもう少し配慮してもらえないでしょうか。

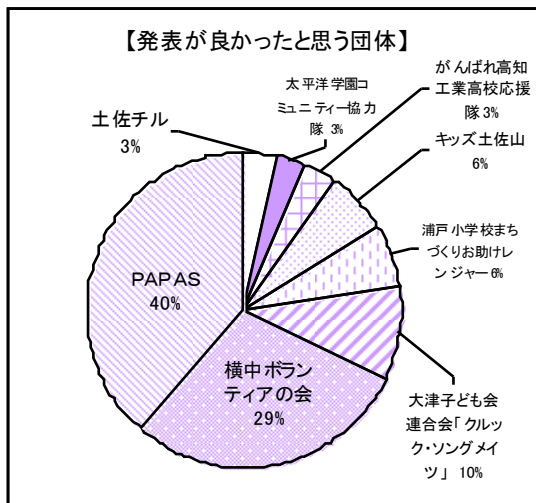
平成 24 年度活動発表会 【応募団体向けアンケート（対象：子ども）】

問1 今日の発表はうまく出来たか

- 1 とてもうまくできた
- 2 まあまあうまくできた
- 3 ふつう
- 4 あまりうまくできなかった
- 5 全然うまくできなかった



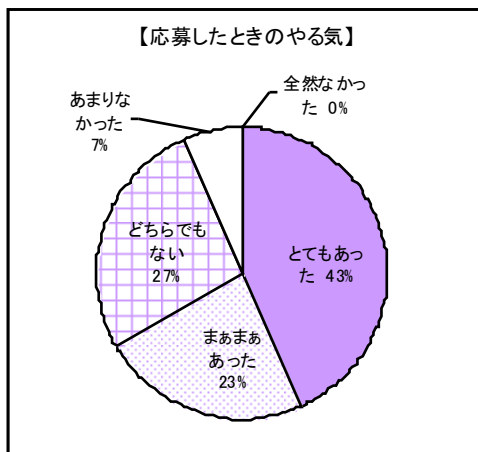
問2 どのチームの発表がよいと思えましたか



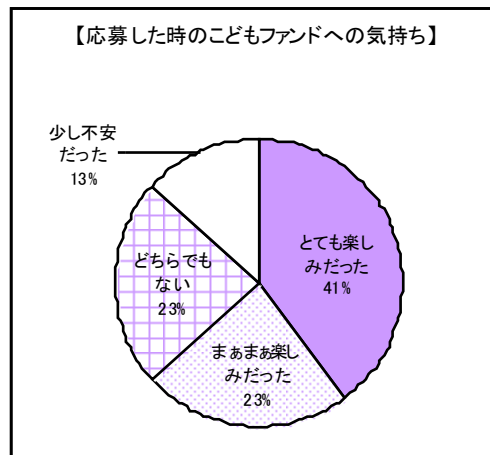
- ・最も地域に貢献できていたから。
- ・少人数ながらも、上手に発表できていた。
- ・幅広い活動をしていてその中で地域の人との交流もあって、とても良い活動をしていると思ったから。
- ・昨年まで自分達がやっていた活動がきちんと受け継がれていてとても嬉しかったから。
- ・皆、はっきりと発表していたし、パワーポイントの作り方がとても良かったと思ったから。
- ・発表内容が分かりやすくまとめられていて、理解しやすかった。明るくはきはきと発表していて印象が良かったから。
- ・みんなで協力して、頑張っていてすごいと思いました。
- ・清掃活動や花を植えるなど、いろいろな町を素敵にする活動をしていてすばらしいと思ったからです。
- ・活動が充実していた。発表の仕方もよかった。
- ・地域にある落書きを消す活動や、落書きを防止するポスターを作ったりして地域に貢献していることを分かりやすく発表していたから。
- ・町中の落書きが消えて、高知県の印象が良くなるから。

問4 応募時と活動後を比べて考えていたことと現在考えていることについて当てはまるものは

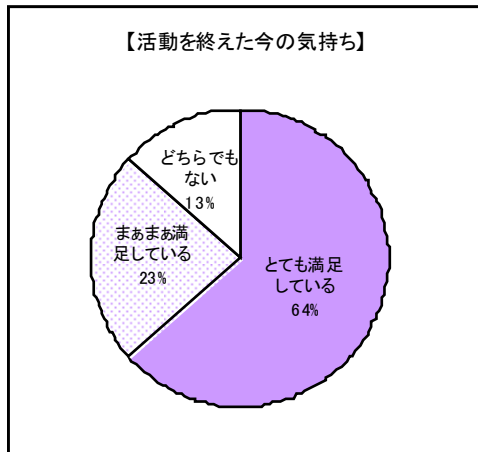
(1) 応募した時のやる気



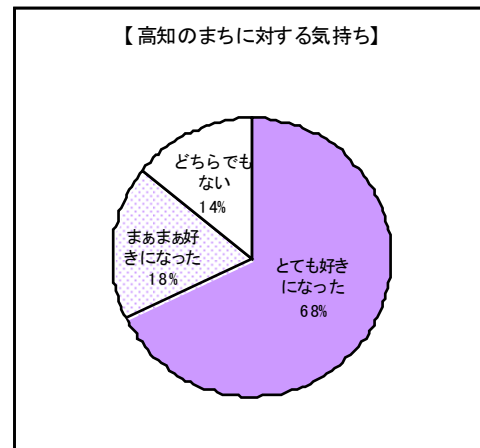
(2) 応募した時のこどもファンドへの気持ち



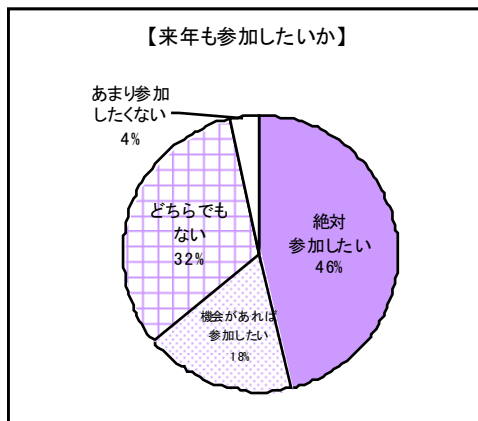
(3) 活動を終えた今の気持ち



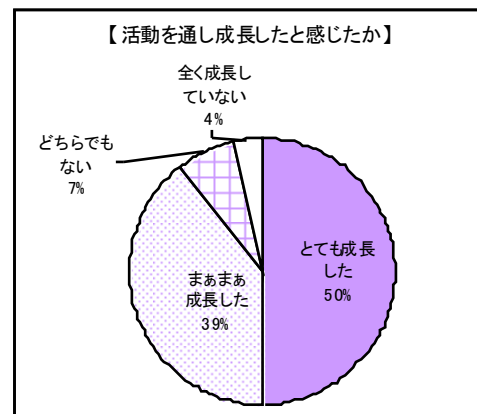
(4) 高知のまちに対する気持ち



(5) 来年も参加したいか



(6) 活動を通して成長したと感じるか

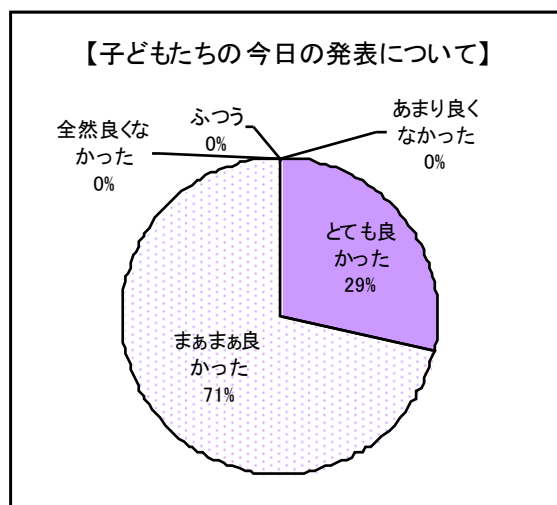


問5 こどもファンドに参加して変化したことは何ですか（自分自身、周りの大人の反応など）

- ・自分の意見をしっかりとと言えるようになった。
- ・地域の人やいろいろな人と関わる場が増えた。
- ・知識が増えた。
- ・人と関わったり話すことは楽しい、ということを改めて感じる事ができた。
- ・自分の意見を出せるようになった。たくさんの人と関わる事ができ、人間的に成長できた。
- ・人前で喋ることができるようになりました。
- ・会の話し合いで発言ができるようになった。みんなと仲良くなれた。
- ・たくさんの人に声をかけてもらえるようになった。自分達が積極的に活動できるようになった。
- ・地域の人達がシャッターを見て「すごいよくなったね」と喜んでくれていた。
- ・他の取り組みを知るとともに、より深める事ができた。
- ・PAPASの発表で、どういう呼びかけをしたら落書きが減るのか？の解答がとても勉強になった。
- ・いろいろな団体の活動を知れて、とても興味を持ったし、参加してみたいボランティアを見つけられた。
- ・他の団体の発表の仕方などを見て良いところを盗めた。
- ・こうちこどもファンドの助成があったので、ボランティアの後の参加者からの意見が変わった。
- ・ボランティアに参加してくれる人数が変わった。
- ・自分自身にとって、しゃべり方（かつぜつが良くなったとか）が少しだけ変わったような気がしたので、参加してよかったと思いました。
- ・実際に活動し、行動力が成長したと思う。また地域の皆さんに喜んでもらえとても嬉しかった。
- ・自分達の活動以外にも、いろんな活動を知ることができた。落書き消しを行うことによって、町がきれいになっていくのを見ると自分自身もとても嬉しい気持ちになりました。
- ・ボランティアなどに積極的に取り組みたいと思うようになった。普段の学校の掃除も汚れをなくそうと、以前よりまじめに取り組むようになった。
- ・地域の人から感謝された。
- ・周りのグループの意見を聞くことで、自分達に必要なものや自分達の良いところを見つける事ができた。

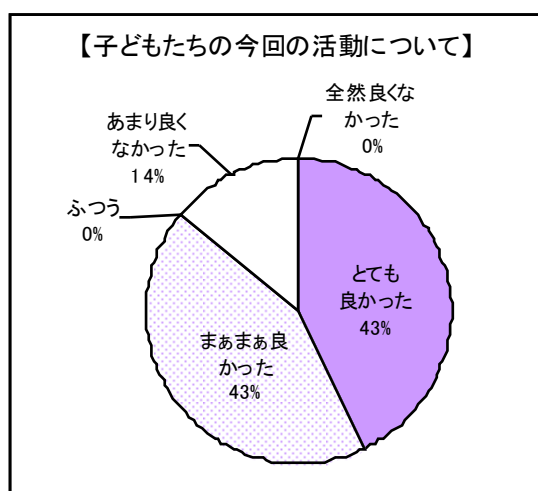
平成 24 年度活動発表会 【応募団体向けアンケート（対象：大人サポーター）】

問1 子どもたちの今日の発表はどうでしたか。



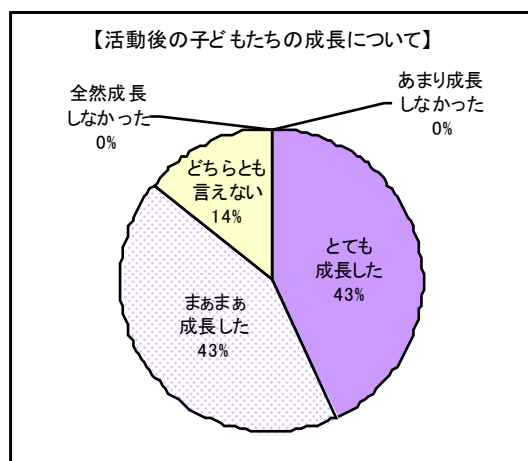
- ・おちついて、時間内にちゃんと話したいこと伝えたいことを伝えられたと思います。
- ・どのグループも時間内によくまとまった発表ができていた。
- ・しっかり3分以内にできた（リハーサル通り）。
- ・1年間防災のことを常に心に持っていられたこと、また頑張ってきてやったことを振り返り、まとめ、報告することができたこと、大きく成長した姿が見られたことなどから。
- ・落ち着いて話ができている。
- ・発表3分という原則を守って準備したので、カットした内容もあり、その点においては他団体についても同様にしてほしかったです。どの団体も、よく準備されていたことは良かったと思います。
- ・限られた時間内で精一杯頑張っていた。

問2 子どもたちの今回の活動はどうでしたか。



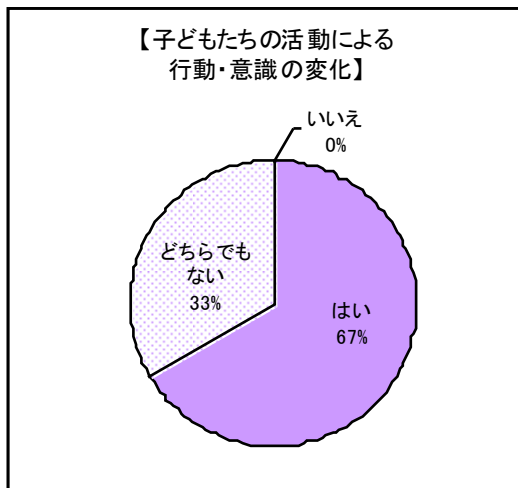
- ・それぞれが自ら考え、動けるまでに成長したことがよく見えました。周りの人に楽しさを伝えることができました。
- ・予定の通りほぼ活動できた。今後はさらに子ども主体の活動に広がることを考えている。
- ・少ない人数で良く頑張りました。
- ・小さい頃から身近な消防ですが、自分たちが励ます側に立つという経験ができたことは将来の消防団を育てること、団に入らなくても防災等に対する心持ちは大きく育ったはずで。
- ・地域の方からの（まちづくりの会）要望もあってのファンドへの応募だったこともあって、今ひとつ子どもたちの気持ちに盛り上がり欠けた。
- ・活動した子どもたちは、本当にいきいきしていたと思います。ボランティアを通して、地域の一員、そして人としての責任感が育ってきたように感じます。
- ・大勢の前での発表、緊張もあろうかと思っただが、精一杯頑張れたと思います。

問3 子どもたちが成長したと感じるか。



- ・小3から高1までの異年齢集団の中で長時間の会議にも耐え、意見を伝える大切さを知ってわかりやすく話せるまでに成長しました。
- ・活動を通して、責任感や行動力といった面が向上したと思う。（特に6年生）
- ・小さい頃から身近な消防ですが、自分たちが励ます側に立つという経験ができたことは将来の消防団を育てること、団に入らなくても防災等に対する心持ちは大きく育ったはずで。問2と同じ。
- ・やはり、自発的な活動が大切になると思う。工夫したり考えたり、という活動を経て成長できると思う。
- ・発表の際の質問や意見に対して、どの子も、どの団体も自分の言葉で表現できていたからです。
- ・よく知らない大人の前や、同世代の前で発表することでずいぶん成長したと思います。

問4 こども達の活動を通じて、自身の行動や意識に変化がありましたか。



問5 具体的にどのような変化がありましたか。

- ・待つことの大切さ、リードすべき時と場合を考えさせられました。
- ・特に防災ポスター作りでは、防災予習の基本が何であるかを新しく知ることができた。防災は避難や減災といった点に目が向きがちだが、地域への愛情や人のつながりの大切さが最も重要であることを学べた。
- ・さらに地域の復活に向けて取り組まなければいけないと思う。
- ・この人口減をどうするか地域とともに考えたい。H25年には1000名を割ってしまう。(児童数も30名を割るのは時間の問題である)
- ・残念ながら、あまり活動を活発にさせることができなかった。
- ・子どもたちが頑張っているならば…大人の私も…と刺激され、啓発されたので、地域の方とも積極的に話したり、行事に参加したいと思うようになりました。

問6 こどもファンド制度について、ご自由にご意見をお聞かせください。

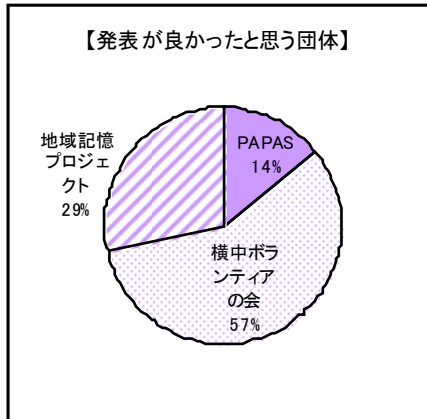
- ・子どもたちが自主的に活動をつくっていくおもしろさをしっかり味わうことができれば、高知はもっとよいところになっていくと思います。こうしたチャレンジはそのためにとてもよいきっかけになると思います。
- ・様々な事業を通して「人づくり」をするという点で本制度は価値あるものと思う。本制度によって取り組まれた事業や人のつながりはデータベース化しておく、将来的にも役立てることができると思う。
- ・お年寄りの多いコミュニティ・人口減が続くコミュニティにこそ早く子どもたちの力を借りて再々できればと思う。
- ・制度は良いので続けてほしいと思いますが、助成の内容はまだ考えなくてはいけない部分もあると思います。最後のベストこどもファンド賞ですが、この賞の決め方ですが、純粋な評価をしていただきたい部分もあるので、自分の団体以外に投票するとか、ある団体の活動によっていただいた寄附を加味する、とか、参加人数（身内の）が多ければよいという選び方はダメかな、と思います。
- ・他のグループや学校にはとても素晴らしい活動がなされていたので、（自分の団体は）来年度助成を受けなくても、こどもファンド制度は今後も続けていかれることを希望します。活動が地域に広がり、大きなムーブメントに発展してくれることを祈ります。学校として、また地域とどのように関わられるのか、考えるきっかけになりました。ありがとうございました。※生徒会の顧問の会でファンドのことは宣伝しておきました！！
- ・子どもたちの発想や取り組みを実行させてくれる制度で、高知の子どもたちはふるさとをより大切にすることを養っていき、自分達に自信がもてる人として成長していけると思います。ぜひ、これからも継続させてほしいです。

平成 24 年度審査会 【審査員向けアンケート（対象：こども審査員）】

問1 今日の発表はよく理解できましたか。

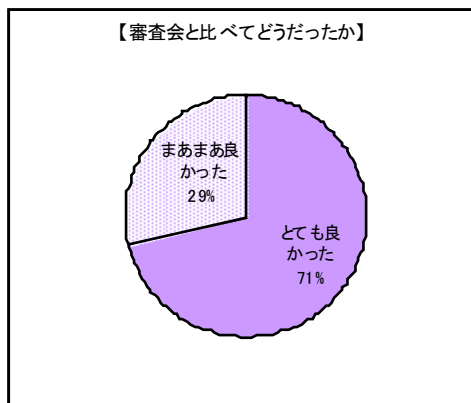
はい 100%

問2 どのチームの発表がよいと思いましたか。



- ・落書きを消したいという気持ちは同じだったので、PAPASにしました。
- ・分かりやすい発表で分担できていたから。
- ・発表や説明が分かりやすくとても興味がわく活動だったから。
- ・プレゼンが分かりやすく、興味がわいた。また一番地域との関わりが多いと感じたから。
- ・発表の内容もよく、聞き取りやすい声で話していた。感想が多く分かりやすかった。
- ・要点がまとめられていて、短時間でも全体を理解することができた。
- ・行っている活動が素晴らしい。もっとどんどん活動を広げてほしい。

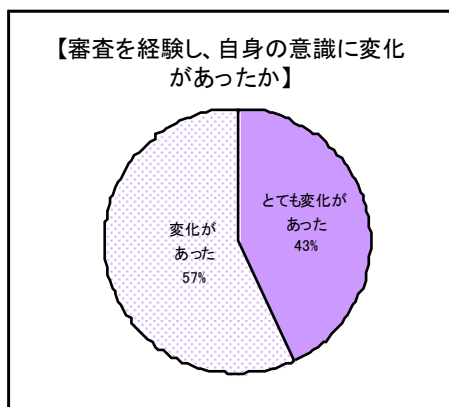
問4 応募したこどもたちの活動は審査会の際の予想と比べて、どうでしたか。



問5 発表を聞いて、良かった点や良くなかった点を教えてください。

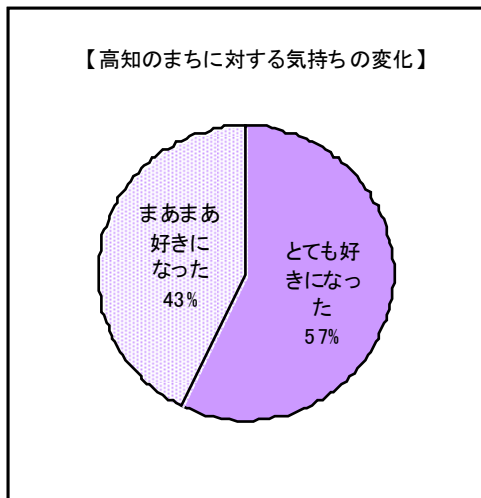
- ・自分達の今までの活動をよく発表できていた。いろいろとは何か説明がほしかった。
- ・団結して、しっかりと結果を出せていた点。発表の声が小さかった点。
- ・もう少し、時間があれば詳しく教えてほしい（活動内容）。
- ・模造紙に書く場合は少し大きめの紙を使ったほうが分かりやすい。ダンスなどの活動をしたところは、そのダンスも見てみたい。
- ・審査会の内容をそのままおこなっている所も多かったが、大幅な変更をしている所もあった。
- ・はじめに企画していたことにとどまらず、活動の場をどんどん広げていったことがすごいと思った。
- ・もっと個々の活動を詳しく聞きたい！

問6 審査員を経験したことで、自分自身の行動や意識に変化はありましたか。



- ・物事に対する自分の意見が変わった。もっと色々なことへの“良い面”を見つけてきた。
- ・自分も自分の考えをどんどん出していけないといけないと思った。
- ・日本初のことをできてとても嬉しかったし、これからのことにも生かしていきたい。
- ・今まであまりボランティア活動に積極的でなかったが、これからはいろいろな活動に参加したいと思うようになった所。
- ・自分の学校をよくするためのヒントを得られた。
- ・高知を美しくするための意識や守るための意識に変化があった。
- ・積極的になった。

問8 高知のまちに対する気持ちに変化はありましたか。



- ・自分の周りに、こんなに高知を好きな人々がたくさんいると思うと嬉しい。とても誇りに思います。
- ・自分の街を良くしていこうという、各団体の気持ちに影響された。
- ・小さな町だと思っていたが、このようなことがおこなわれていたので、小さな町が大きく見えてきた。
- ・落書きを見ても「しょうがない」と思っていたが、自分達が前線に立って消していきたいと思うようになった。
- ・高知の町をもっと良くするために何かやろうという気持ちにもなった。
- ・美しさを継続させていきたいと思う気持ちの変化。
- ・高知の悪いところをいいところに変えようとする人たちがたくさんいたこと。

【発行】

高知市 市民協働部 地域コミュニティ推進課

〒780—8571 高知市鷹匠町 2 丁目 1—43

TEL／088—823—9080

FAX／088—823—9794

<平成 25 年6月発行>